



直接工事費 編

取扱説明書

(一財) 建設物価調査会

このマニュアルは「楽しくアプロ工事費算出システムシリーズ 直接工事費編」のご利用方法を説明しており、土木・下水道・土地改良で共通のマニュアルとなっております。ただし、特定の工種のみ機能の場合は（土木）・（下水）・（土地改良）と記載しておりますのでご注意ください。

目次

1. メニュー画面	6
2. 施工単価	10
2-1. 単価一覧画面.....	10
2-1-1. 体系ツリーの展開	11
2-1-2. 検索機能	12
2-1-3. 積算地区の選択	14
2-1-4. 工種の選択と条件の入力	15
2-1-5. 選択した工種の計算画面の表示	19
2-1-6. 基準書の閲覧（土木）	20
2-1-7. 基準書の閲覧（土地改良）	23
2-2. 単価計算画面.....	25
2-2-1. 画面表示	25
2-2-2. 積算地区の選択	27
2-2-3. 標準日当り作業量と作業日数	27
2-2-4. 週休2日補正の選択	28
2-2-5. 労務費割増の選択（労務単価補正・時間的制約を受ける場合）	28
2-2-6. 下位単価の確認（積上）	29
2-2-7. 補正係数の入力（施工パッケージ）	31
2-2-8. 支給品の指定（施工パッケージ）	32
2-2-9. 内訳の編集	33
2-2-10. 根拠表の印刷	34

3. 複合単価	35
3-1. 複合単価の登録.....	36
3-2. 内訳単価の数量変更.....	42
3-3. 複合単価の印刷.....	43
3-4. 内訳単価の確認.....	45
3-5. 内訳単価の更新.....	46
3-6. 複合単価名称・単位の編集.....	47
3-7. 複合単価の削除.....	48
3-8. 内訳単価の削除.....	49
3-8-1. 単価一覧画面から	49
3-8-2. 計算結果画面から	50
3-9. 複合単価の複製.....	51
3-10. 内訳単価の複製	53
3-11. 複合単価の引き継ぎ	55
3-11-1. 同じ PC のアプロ製品から引き継ぎ	55
3-11-2. 異なる環境のアプロ製品から引き継ぎ	58
4. その他の利用方法について（計算事例集）	61
4-1. 費用の内訳条件について（1日未満で完了する作業の計算）（土木）	61
4-2. 1日未満の施工作成例（土木）	63
4-2-1. 施工量が10m ³ だった場合	64
4-2-2. 施工量が25m ³ だった場合	70
4-3. 支給品がある場合の計算例（土木・土地改良）	72
4-4. 時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例	75

4-5. 仮設材の賃料について（土木）	84
4-5-1. 仮設材賃料の減額補正	84
4-5-2. 仮設材の賃料計上限度額	88
4-6. 鋼矢板材料における「地域エキストラ」の加算について	89
4-7. 機械器具損料について（下水）	90

1. メニュー画面

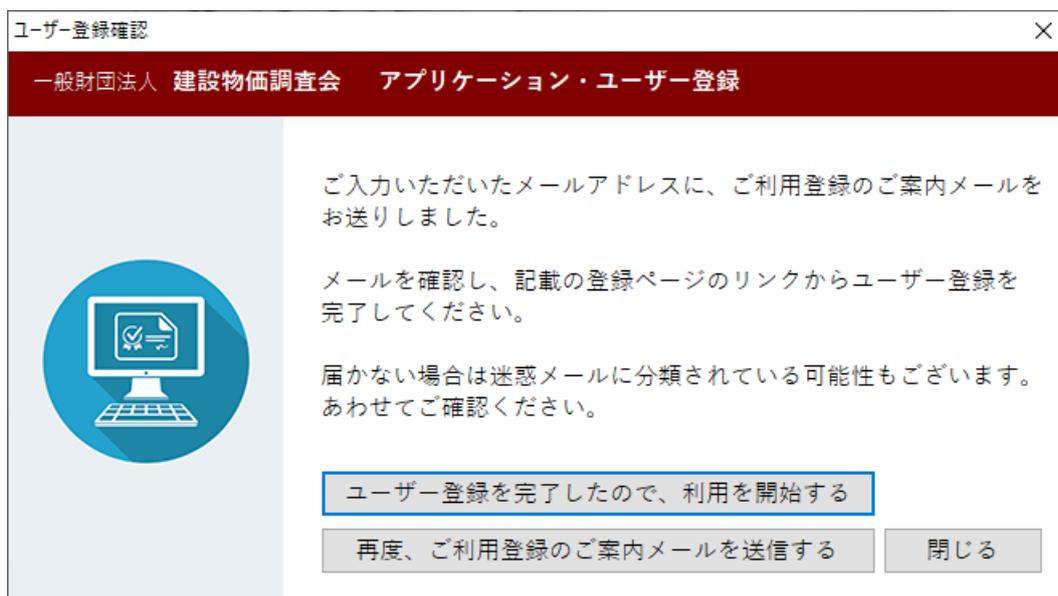
「楽しくアプロ 土木 直接工事費編」を起動すると、メニュー画面が表示されます。



「利用を開始」ボタンをクリックすると、以下のようなユーザー登録画面が表示されます。

The screenshot shows a window titled 'ユーザー登録確認' (User Registration Confirmation). The header bar is dark red and contains the text '一般財団法人 建設物価調査会 アプリケーション・ユーザー登録'. The main content area has a light blue background on the left with a circular icon of a computer monitor and keyboard. The right side contains the following text: 'このアプリケーションを利用するには、ユーザー登録が必要です。登録するメールアドレスと、シリアルコードをご入力いただき、「送信」してください。' (To use this application, user registration is required. Please enter the email address and serial code you want to register with, and click '送信'). Below this text are two input fields: 'メールアドレス' (Email address) and 'シリアルコード' (Serial code). At the bottom right, there are two buttons: '送信' (Send) and '閉じる' (Close).

お客様の「メールアドレス」と書籍に添付された「シリアルコード」を入力して、「送信」ボタンをクリックすると、以下のような登録案内メール送信画面が表示されます。

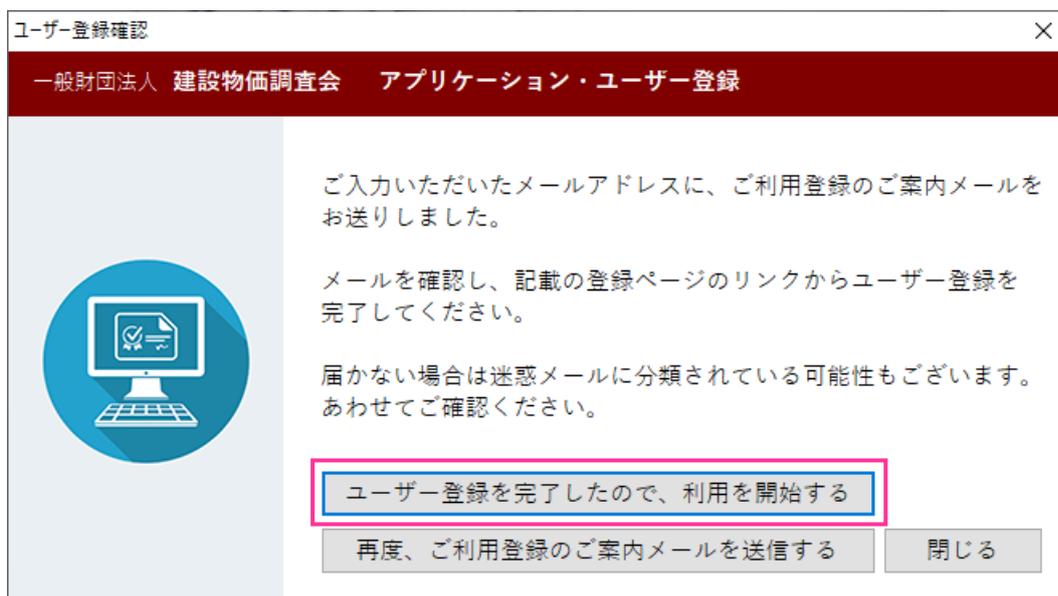


お客様のメールアドレス宛に、ユーザー登録のご案内メールが送信されています。

メールを受信し、記載された手順どおりにユーザー登録を完了させてください。

(メールに記載された登録 URL をクリックし、ブラウザからご登録いただきます)

ユーザー登録が完了しましたら、画面に戻り、「ユーザー登録を完了したので、利用を開始する」ボタンをクリックしてください。



システムが、ユーザー登録をサーバーに問い合わせます。

無事に登録が確認できれば、本体機能が起動します。



1 度ユーザー登録を完了いただければ、次回起動時はメニュー画面で「ご利用を開始する」ボタンをクリックすると、直接上記のメイン画面に遷移します。

※ 2 度目以降のご利用時は、ご登録いただいたユーザー・ご利用環境識別情報で自動的に登録の確認を行っています。

※ 別 PC や別ユーザーアカウントで同じシリアルコードを使用してご登録された場合は、従来ご利用していたユーザーアカウントではご利用いただけず、認証エラー画面が表示されます。画面の案内に従い、利用規約に準じたご利用をお願いいたします。

※ 3月単価版更新後は、はじめに適用単価の年月を問い合わせる画面が表示されます。
適用する単価年月を選択していただくと上記メイン画面に遷移します。

単価選択

2024年4月単価
2024年4月時点の労務単価を採用しています。

2025年3月単価
2025年3月より適用される労務単価を採用しています。

2. 施工単価

2-1. 単価一覧画面

単価一覧画面の上部のタブ「施工単価」を選択すると、以下のような施工単価の体系ツリーが表示されます。



楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版

施工単価 複合単価 単価表示地区: 北海道

- 土木
 - 総別
 - 工事費の積算
 - 共通工
 - 土工
 - 共通工
 - 基礎工
 - コンクリート工
 - 仮設工
 - 河川
 - 河川海岸
 - 河川維持工
 - 砂防工
 - 地すべり防止工
 - 道路
 - 舗装工
 - 付属施設
 - 道路維持修繕工
 - 共同溝工
 - 道路除雪工
 - 橋梁工
 - 土木工事標準単価及び市場単価
 - 土木工事標準単価
 - 市場単価

区分	条件名称	回答	回答名称
施工単価が選択されていません。			

基準書を見る 条件入力 計算実行

2-1-1. 体系ツリーの展開

画面左のツリー部は体系順にツリー構造になっています。

各項目に左に位置する▷をクリックすると、下位項目を展開表示することができます。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版

単価表示地区: 北海道

施工単価 複合単価

- 土木
 - 総別
 - 工事費の積算
 - 共通工
 - 土工
 - 土工
 - 掘削
 - 土砂等運搬
 - 整地
 - 路体(築堤)盛土
 - 路床盛土
 - 押土(ハース)
 - 横込(ハース)
 - 人力横込
 - 転石破碎
 - 土材料
 - 残土等処分
 - 土工 (ICT)
 - 作業土工 (床掘工)
 - 作業土工 (床掘工 (ICT))
 - 作業土工 (埋戻工)
 - 人力運搬工
 - 安定処理工
 - 安定処理工 (自走式土質改良工)
 - 土砂運搬工 (不整地運搬車による運搬)
 - 共通工
 - 基礎工
 - コンクリート工
 - 仮設工
 - 河川
 - 河川海岸
 - 河川維持工

区分	条件名称	回答	回答名称
施工単価が選択されていません。			

名前
規格
単位

基準書を見る 条件入力 計算実行

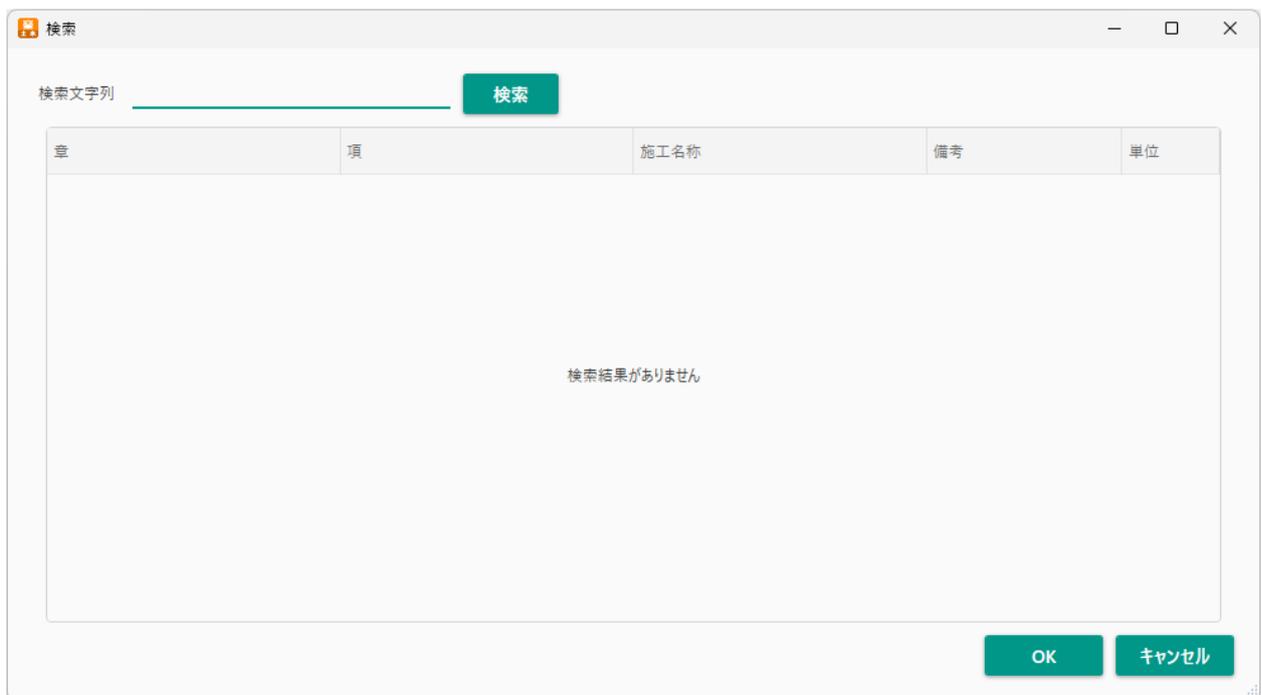
2-1-2. 検索機能

ツリーの中を検索することができます。

まず、画面下の検索ボタンで検索画面を表示します。



次のような検索画面が表示されます。



検索する文字を入力し、「OK」を選択します。

章	項	施工名称	備考	単位
土工	土工	掘削		m3
土工	土工 (ICT)	掘削(ICT)		m3
土工	作業土工 (床掘削)	掘削補助機械搬入搬出		回
基礎工	深礎工	掘削土留		本
基礎工	深礎工	掘削作業設備組立解体工	(C工法のみ計上)	本
基礎工	ニューマチックケーソン工	機械掘削		m3
基礎工	ニューマチックケーソン工	掘削設備		基
基礎工	基礎工 (鋼管矢板基礎工) (打撃工法)	鋼管内掘削工		m3
基礎工	基礎工 (鋼管矢板基礎工) (打撃工法)	井筒内掘削工		m3
河川維持工	機械土工 (河床等掘削)			
河川維持工	機械土工 (河床等掘削)	河床等掘削		

検索結果の一覧が表示されます。

結果の行をダブルクリック、または選択してから「OK」ボタンをクリックすると、ツリー表示に戻り該当箇所を選択します。

2-1-3. 積算地区の選択

画面右上には現在選択されている積算地区が表示されています。

ボックス右に位置する▼をクリックすると、選択可能な地区が一覧表示されます。



2-1-4. 工種の選択と条件の入力

画面左側の体系ツリーで、**T**のアイコンは積上の施工単価データを、**P**のアイコンは施工パッケージの施工単価データを表しています。

これらを選択すると、画面の右側にこの施工単価に設定された条件の一覧が表示されます。

The screenshot shows a software window titled "楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版". The interface is split into two main sections: a tree view on the left and a table on the right.

Tree View (Left): A hierarchical tree structure under "土木". The "掘削" (Excavation) item is selected and highlighted with a pink "P" icon. Other items include "総別", "工事費の積算", "共通工", "土工", "土工 (ICT)", "作業土工 (床掘工)", "作業土工 (床掘工 (ICT))", "作業土工 (埋戻工)", "人力運搬工", "安定処理工", "安定処理工 (自走式土質改良工)", "土砂運搬工 (不整地運搬車による運搬)", "基礎工", "コンクリート工", "仮設工", "河川", "河川海岸", and "河川維持工".

Table (Right): A table with 4 columns: "区分" (Category), "条件名称" (Condition Name), "回答" (Response), and "回答名称" (Response Name). The table contains 8 rows of conditions:

区分	条件名称	回答	回答名称
J1	土質		
J2	施工方法		
J3	押土の有無		
J4	障害の有無		
J5	施工数量		
J6	火薬使用		
J7	破砕片除去の有無		
J8	集積押土の有無		

At the bottom of the window, there are three buttons: "基準書を見る" (View Reference Book), "条件入力" (Input Conditions), and "計算実行" (Execute Calculation). The "単価表示地区" (Unit Price Display Area) is set to "北海道" (Hokkaido).

積上・施工パッケージいずれの方式も条件入力の方法は共通です。

先頭の条件 (J1) をダブルクリックするか、画面右下のボタン「条件入力」を選択すると、次のような条件入力画面が表示されます。

(選択条件のとき)

条件入力

条件番号 J1

条件名称 土質

回答一覧

番号	回答名称
1	土砂
2	岩塊・玉石
3	軟岩
4	硬岩

前条件へ 次条件へ 閉じる

(入力条件のとき)

条件入力

条件番号 J4

条件名称 杭径(φ)

入力範囲 1000 ~ 1600

実数入力 | mm

前条件へ 次条件へ 閉じる

表示された選択肢の一覧から任意の回答をダブルクリックするか、または画面右下のボタン「次条件へ」を選択して、次の条件選択（入力）に移ります。

前の条件へ戻りたいときは、「前条件へ」を選択します。

このように次々と条件を選択し、すべての条件を選択・入力します。



楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版

施工単価 複合単価 単価表示地区: 北海道

土木

- 総則
- 工事費の積算
- 共通工
- 土工
 - 土工
 - 掘削
 - 土砂等運搬
 - 整地
 - 路体(築堤)盛土
 - 路床盛土
 - 押土(ハース)
 - 擁壁(ハース)
 - 人力擁壁
 - 軽石破砕
 - 土材料
 - 残土等処分
 - 土工 (ICT)
 - 作業土工 (床掘工)
 - 作業土工 (床掘工 (ICT))
 - 作業土工 (埋戻工)
 - 人力運搬工
 - 安定処理工
 - 安定処理工 (自走式土質改良工)
 - 土砂運搬工 (不整地運搬車による運搬)
- 共通工
- 基礎工
- コンクリート工
- 仮設工

河川

- 河川海岸
- 河川維持工

名前 掘削
規格
単位 m3

区分	条件名称	回答	回答名称
J1	土質	1	土砂
J2	施工方法	1	オーブカット
J3	押土の有無	1	有り
J4	障害の有無	-	
J5	施工数量	1	普通土30000m3未満又は湿地軟弱土
J6	火薬使用	-	
J7	破砕片除去の有無	-	
J8	集積押土の有無	-	

基準書を見る 条件入力 計算実行

条件、回答の組合せによってある条件が回答不要となる場合があります。

このような場合は、回答に「-」が選択され、条件選択は省略されます。

また、施工パッケージの条件を設定する際には選択肢の一部が太字になっている場合があります。

条件入力

条件番号 J1

条件名称 材料

回答一覧

番号	回答名称
1	瀝青安定処理材(25)
2	瀝青安定処理材(30)
3	瀝青安定処理材(40)
4	再生瀝青安定処理材(40)
5	路盤材(各種)
6	再生粒度調整碎石 RM-25
7	再生粒度調整碎石 RM-30

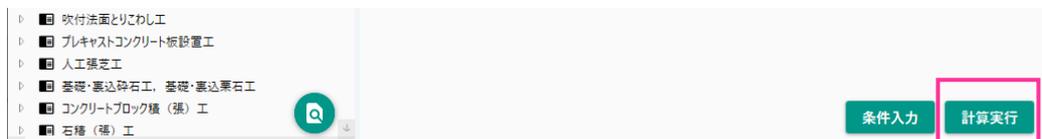
前条件へ 次条件へ 閉じる

太字の材料は、国土交通省国土技術政策総合研究所または農林水産省にて公表されている、施工パッケージの標準単価表で使用されている材料です。

本システムは基準書に準拠したデータになっているので、上記の標準単価表で使用している材料以外にも選択できるようになっていますが、代表的な材料であることをわかりやすく表示するため、条件選択時の表示を太字にしています。

2-1-5. 選択した工種の計算画面の表示

すべての条件を設定したら、画面右下の「計算実行」を選択します。



計算画面の操作は、「2-2. 単価計算画面」をご覧ください。

単価表に0円の単価がある場合、以下の注意点が表示されます。



OK をクリックすると、計算結果画面が表示されます。注意点で0円の単価が表示されていた場合は、単価を入力してください。

2-1-6. 基準書の閲覧（土木）

当社が提供する電子基準書閲覧サービスを起動させることができます。

単価一覧画面の「基準書を見る」ボタンをクリックしてください。



以下の画面が開きます。



閲覧には別途「建設物価調査会デジタルブック」の契約が必要です。

ご利用前に「ブラウザでログイン」のリンクからブラウザを開き、ログインしてください。

建設物価デジタルブック

デジタルブックの導入をご検討の方へ

ログインされる方へ

デジタルブックと本との違い

主な特長

閲覧(パソコン)可否診断

ログインID

パスワード

登録済みのメールアドレス(認証コード送付先)

ログイン

利用申込書に記載されたご利用部署(同一住所内)以外で利用される場合、別途契約が必要となります。

◆パスワード・メールアドレスを忘れた方(設定)はこちら

刊行物 修正等情報

年間発行スケジュール

一度ログインして当該基準書を閲覧いただくと、「該当ページをデジタルブックで開く」ボタンから、基準書の該当ページをオンラインで閲覧いただけます。

ページ: 348 / 2350 検索キーワードを入力

② 土工

②-1 土工

1. 適用範囲

本資料は、施工パッケージによる土工に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 掘削

(1) 土砂、岩塊・玉石、軟岩、硬岩の掘削

(2) 掘削深さが5m以内のバックホウ掘削の場合

(3) 掘削面がプラスチックによる水中掘削機を使用する場合

(4) 破砕片除去を伴う際は、掘削面と機械基礎の高低差が5mまでの場合

(5) 軟岩、硬岩の床掘りの場合(軟岩の場合、施工数量が5,000㎡未満)

1-1-2 土砂等運搬

(1) 自工区内の土砂等の運搬

(2) 土取場(仮置場)から採取する土砂等の運搬

(3) 構造物築造のために行う作業土工で生じた残土の処分場又は他工区までの運搬

(4) 掘削工で生じた残土の処分場又は他工区までの運搬

1-1-3 整地

(1) 構造物築造のために行う作業土工で生じた土砂等又は掘削工で生じた土砂等の受入れ地(仮置場)、土取場での整地

1-1-4 路体(築地)盛土

(1) 自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等を使用した路体(築地)盛土

(2) 他工区内で発生し運搬されてくる土砂等を使用した路体(築地)盛土

(3) 土取場(仮置場)で採取し運搬されてくる土砂等を使用した路体(築地)盛土

(4) 購入土を使用した路体(築地)盛土

1-1-5 路床盛土

(1) 自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等を使用した路床盛土

(2) 他工区内で発生し運搬されてくる土砂等を使用した路床盛土

(3) 土取場(仮置場)で採取し運搬されてくる土砂等を使用した路床盛土

(4) 購入土を使用した路床盛土

1-1-6 押土(ルーズ)

(1) 運搬距離60m以下の埋土による土砂等の運搬作業の場合

(2) 運搬距離30m以下の岩削削後の垂積用押土の場合

1-1-7 積込(ルーズ)

(1) 土取場(仮置場)から採取する土砂等の積込み

(2) 採取された土砂等の積込み

(3) 破砕片除去の場合

1-1-8 人力積込

(1) 採取された土砂等の人力による積込み

1-1-9 転石破砕

(1) 道路、河川工事等の岩削削に伴う転石破砕

1-1-10 土材料

(1) 道路土工、河川土工等における土材料(現場産し単価又は土場産し単価)を搬入する場合

1-1-11 残土処分

(1) 残土運搬された土砂等の残土の処分場での処分

(2) 排水運搬された汚泥、泥水等の受入れ場での処分

1-2 適用出来ない範囲(土木工事標準積算基準書等により別途計上するもの)

1-2-1 掘削

(1) 海上・永上作業におけるクラムシェル水中掘削機掘削

(2) クラムシェルによる床掘り(作業土工)

(3) 湧出工、鋼管矢張基礎工、共同掘削、地すべり防止工におけるクラムシェル掘削機掘削

(4) 河川掘削に準拠する光ケーブル配管工事の掘削(土の状態を問わない)を行う場合

(5) 掘削(砂防)

(6) 情報ボックス工の設置工事の掘削

(7) 掘削(トンネル工)

(8) 電線共同溝工事における掘削

(9) 砂防、ダム、トンネルの本体工事の岩削削及び水中掘削

(10) 3D-MG又はMCバックホウによる土砂、岩塊・玉石の掘削機掘削

(11) 3D-MG又はMCバックホウによる土砂の片切掘削

1-2-2 土砂等運搬

(1) 土砂等運搬(砂防)

(2) 河床等沈積物、底質等軟弱土を除去した後の運搬作業

(3) 機械運搬が使用出来ない箇所での人力運搬

1-2-3 整地

(1) 掘削を含む場合

1-2-4 路体(築地)盛土

(1) 路床盛土

(2) 3D-MG又はMCブルドーザによる土砂等を使用した路体(築地)盛土

1-2-5 路床盛土

(1) 連土物埋留を有する場合

(2) 路床盛土工

(3) 3D-MG又はMCブルドーザによる土砂等を使用した路床盛土

1-2-6 押土(ルーズ)

(1) 地山の掘削を伴う押土の場合

1-2-7 積込(ルーズ)

(1) 地山を掘削した土砂等を直接運搬車両等に投入する場合

(2) 積込(ルーズ)(砂防)

(3) 人力による積込み

1-3 適用出来ない範囲(別途考慮するもの)

1-3-1 土砂等運搬

(1) 自動車専用道路を利用する場合

(2) 運搬距離が60kmを超える場合

II-1-2-1

II-1-2-2

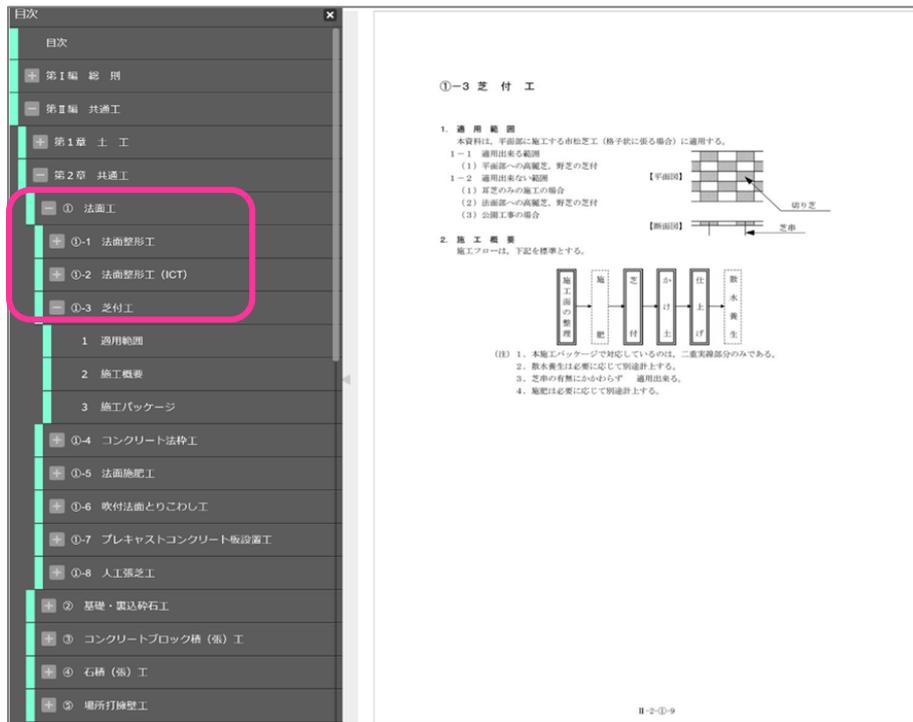
348

目次 ページ一覧 目せみ一覧 PDF

戻る 前のページ 次のページ 進む

目せみ 拡大 自動めくり

国土交通省土木工事標準積算基準書<共通編、河川・道路編>デジタルブック



楽しくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編



国土交通省土木工事標準積算基準書デジタル版と同じ目次構成なので検索が容易です。

併せてご利用ください。

2-1-7. 基準書の閲覧（土地改良）

農林水産省で公表されている積算基準 PDF を閲覧することができます。

単価一覧画面の「基準書を見る」ボタンをクリックしてください。



ブラウザで PDF の該当ページが開きます。



PC の設定により PDF がダウンロードとなってしまう場合があります。

選択工種によるページ指定はブラウザで閲覧した場合のみ有効となりますので、ブラウザで PDF を閲覧する設定を推奨いたします。設定はブラウザ等の設定で変更できます。

【Google Chrome で設定する】

ブラウザウィンドウの右上にある、3つの点をクリックする。

「設定」→「プライバシーとセキュリティ」→「サイトの設定」へと進む。

「その他のコンテンツの設定」→「PDF ドキュメント」へと進む。

「Chrome で PDF を開く」を選択する。

【Microsoft Edge で設定する】

ブラウザウィンドウの右上にある、3つの点をクリックする。

「設定」→「Cookie とサイトのアクセス許可」へと進む。

「PDF ドキュメント」へと進む。

「常に PDF ファイルをダウンロード」の選択を外す。

これらの設定は、ブラウザのバージョン、組織のポリシー等により異なる場合があります。

また、もしブラウザで開かず、Adobe Acrobat などの外部アプリで自動的に開いてしまう場合は、外部アプリの設定を確認してください。

2-2. 単価計算画面

2-2-1. 画面表示

施工単価一覧画面において、「計算実行」を選択すると、計算結果画面が表示されます。
 選択した標準単価が、施工パッケージか積上かにより、表示される項目が異なります。

以下は積上の施工単価の計算結果画面です。



名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人	2.778	25,200	70,005.6	
ブロック工		人	2.778	27,600	76,672.8	
普通作業員		人	8.333	19,100	159,160.3	
ブレイクストブ ロック		個	1,000	0	0	
ラフレックレンゲン賃料	油圧伸縮シブ 25t吊	日	2.778	46,400	128,899.2	
諸雑費(率+まるめ)		%	35	434,737.9	152,062.1	

以下は施工パッケージの施工単価の計算結果画面です。



区分	構成比	代表機労材 名称・規格	単位	東京 基準 単価	積算地区 名称・規格	単位	積算 地区 単価	演算子	係数	支給品
K	55.28									
K1	55.28	ブルドーザ [遺地・排出ガス対策型 (第3次基準 供用日 30,600 プラド-ザ [遺地]掘削 排対3次 20t級) 20t級]	供用日	30,600	ブルドーザ [遺地]掘削 排対3次 20t級	供用日	33,600			
R	24.97									
R1	24.97	運転手(特殊)	人	25,300	運転手(特殊)	人	23,400			
Z	19.75									
Z1	19.75	軽油 バトル給油	L	136	軽油	L	131			

$$\begin{aligned}
 & P' = 317.08 \\
 & \times \left\{ \left(\frac{55.28}{100} \times \frac{33600}{30600} \right) \times \frac{55.28}{55.28} \right. \\
 & + \left(\frac{24.97}{100} \times \frac{23400}{25300} \right) \times \frac{24.97}{24.97} \\
 & + \left(\frac{19.75}{100} \times \frac{131}{136} \right) \times \frac{19.75}{19.75} \\
 & \left. + \frac{100 - 55.28 - 24.97 - 19.75}{100} \right\} = 328.02650786754048445865302641 \approx 328.1 \text{ [円/m}^3\text{]}
 \end{aligned}$$

画面は施工パッケージと積上共通で、大きく3つのブロックに分かれています。

画面の上部は、標準単価の基本情報として、名称、備考、選択条件、単位、算出単価、日当り施工量（基準書に明示ある場合）、施工数量、施工日数が表示されています。

積算結果			
◀ 戻る 掘削			
施工名称	掘削	単位	m3
備考		算出単価	326.1
選択条件	【J1】土質=土砂, 【J2】施工方法=オーブカット, 【J3】押土の有無=有り, 【J5】施工数量=普通土3000m3未満又は湿地軟弱土	日当り施工量	320
		施工数量	1
		施工日数	1

画面の中央部は、施工単価の内訳が表示されています。施工パッケージの場合は、算出式も一緒に表示されます。各単価の名称・単価・数量等を書き換えたり、各種補正を加えることができます。

区分	構成比	代表機労材 名称・規格	単位	東京 基準 単価	積算地区 名称・規格	単位	積算 地区 単価	演算子	係数	支給品
K	53.02									<input type="checkbox"/>
K1	53.02	ブルドーズ [湿地・排出ガス対策型 (第1次基準 値)] 20t級	供用日	24,700	ブルドーズ [湿地]損料 排対1次 20t級	供用日	26,600			<input type="checkbox"/>
R	27.91									<input type="checkbox"/>
R1	27.91	運転手 (特殊)	人	23,800	運転手 (特殊)	人	20,900			<input type="checkbox"/>
Z	19.07									<input type="checkbox"/>
Z1	19.07	軽油 1, 2号	L	114	軽油 1,2号	L	112			<input type="checkbox"/>
$P^1 = 266.88$ $\times \left(\left(\frac{53.02}{100} \times \frac{26600}{24700} \right) \times \frac{53.02}{53.02} \right)$ $+ \left(\frac{27.91}{100} \times \frac{20900}{23800} \right) \times \frac{27.91}{27.91}$ $+ \left(\frac{19.07}{100} \times \frac{112}{114} \right) \times \frac{19.07}{19.07}$ $+ \left(\frac{100 - 53.02 - 27.91 - 19.07}{100} \right) = 267.795670125540084580834225837 \approx 267.8 \text{ [円/m}^3\text{]}$										

画面のサイズによってはすべてを表示しきれない場合がありますので、ウィンドウサイズの変更やスクロールバーで調整してください。

画面の右部は、単価に対する補正の指定や、印刷・ユーザー単価の作成等に使用する操作メニューになっています。

補正
単価地区表示
北海道
連休2日補正
補正なし
労務費割増
<input type="checkbox"/> 割増率 1.5
帳票
<input type="checkbox"/> プレビュー
<input type="checkbox"/> 印刷
複合単価
<input type="checkbox"/> 新規登録
<input type="checkbox"/> 更新
<input type="checkbox"/> 削除

2-2-2. 積算地区の選択

単価の計算地域は、「単価地区表示」コンボボックスで切り替えることができます。

ボックス右の▼をクリックすると、選択可能な地区が一覧表示されます。



積算地区を切り替えると、算出結果に反映されます。

2-2-3. 標準日当り作業量と作業日数

標準日当り作業量と作業日数			
単位	m3	日当り施工量	320
算出単価	267.8	施工数量	1
南又は湿地軟弱土		施工日数	1

施工パッケージ形式、積上形式ともに、基準書に日当り施工量の明示がある場合は、その値を表示します。

施工数量を設定すれば、施工日数を計算して表示します。

日当り施工量と施工数量はいずれも任意の値に変更することができます。

※下水道直接工事費編・土地改良直接工事費編につきましては、基準書に記載がない日当たり施工量につきましては、「土木一般世話役」数量から算出を行っております。

2-2-4. 週休 2 日補正の選択

週休 2 日補正の有無を切り替えることができます。

週休 2 日補正コンボボックスをクリックすると、週休 2 日における現場閉所による補正（当システム内では(閉所)と表記）と交替制による補正（当システム内では(交替)と表記）の一覧が表示されます。プルダウンで該当する補正を選択すると補正が適用されます。

（注）現場閉所による週休 2 日制補正では、労務単価・機械賃料単価・市場単価・土木工事標準単価に対応しています。交替制による週休 2 日補正では、労務単価・市場単価・土木工事標準単価に対応しています。



2-2-5. 労務費割増の選択（労務単価補正・時間的制約を受ける場合）

労務費割増の有無は、条件入力画面とは別に、計算実行後の画面右側の労務費割増機能にチェックを入れることで切り替えることができます（条件入力で「夜間作業」などを選択した場合も、計算実行後にチェックを入れていなければ補正されません）。労務費割増にチェックを入れると、労務単価に労務費割増率が適用されます。

デフォルト値は 1.50 となっていますが、割増率の修正が可能です。

修正が必要な場合は下記赤枠部分をクリック後、次画面にて数値を入力し、OK ボタンをクリックしてください。



夜間作業の場合での利用上の注意点等を 4. その他の利用方法について（計算事例集）

4-4. 時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例に記載しています。

2-2-6. 下位単価の確認（積上）

構成項目に下位単価表が存在する場合は、摘要欄に下位単価表へのリンクが表示されます。

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人	0.044	25,200	1,108.8	
特殊作業員		人	0.133	22,800	3,032.4	
普通作業員		人	0.089	19,100	1,699.9	
注入材		L	11	0	0	
ポンプ・マシン(油圧)損料	5.5kW級	日	0.089	7,100	631.9	
薬液注入ポンプ 損料	5~20L/min×2 9.8MPa	日	0.089	5,510	490.39	
削孔消耗材料費(砕質土)	(二重管スレーナ工法)	m	1	0	0	第2号単価表
削孔消耗材料費(砂質土)	(二重管スレーナ工法)	m	1	0	0	第3号単価表
削孔消耗材料費(粘土)	(二重管スレーナ工法)	m	1	0	0	第4号単価表
注入消耗材料費	(二重管スレーナ工法)	kL	0.011	0	0	第5号単価表
諸雑費(率+まるめ)		%	19	6,963.39	1,322.61	

リンクをクリックすると下位単価表が表示されます。

検索結果

◀ 戻る 削孔消耗材料費

施工名称 削孔消耗材料費 単位 m 単位数 1

施工規格 (二重管ドリ工法) 単価 0 単位数あたり 0

選択条件 【1】注入方式=単相方式, 【2】土質区分=H質土

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
薬液注入部材 二重管ドリノット		m	0.05	0	0	
薬液注入部材 マタケツケン	径41	個	0.3	0	0	
薬液注入部材 グラトモナ	単相用 径40.5	個	0.005	0	0	
その他雑品		%	15	0	0	

補正
 単価地区表示
 北海道
 運休2日補正
 補正なし

労務費割増
 割増率 1.5

帳票
 プレビュー
 印刷

複合単価
 新規登録
 更新
 削除

画面左上の  で前の画面に戻ります。

2-2-7. 補正係数の入力（施工パッケージ）

施工パッケージの使用単価には補正を設定することができます。

列「演算子」には「*」、「/」を設定できます。

列「係数」には任意の補正值を入力できます。

労務単価にそれぞれ*1.2の補正を設定するには以下のようにします。

区分	構成比	代表機材名称・規格	単位	東京基準単価	積算地区名称・規格	単位	積算地区単価	演算子	係数	支給品
K	0.45									<input type="checkbox"/>
K1	0.45	ランマ 質量60～80kg	供用日	515	ランマ及びランマ[ランマ]損料 質量60～80kg	供用日	556			<input type="checkbox"/>
R	99.15									<input type="checkbox"/>
R1	69.03	普通作業員	人	20,200	普通作業員	人	16,900	*	1.2	<input type="checkbox"/>
R2	15.38	土木一般世話役	人	24,200	土木一般世話役	人	21,500	*	1.2	<input type="checkbox"/>
R3	14.74	特殊作業員	人	23,200	特殊作業員	人	20,500	*	1.2	<input type="checkbox"/>
Z	0.4									<input type="checkbox"/>
Z1	0.4	ガソリン レギュラー スタンド	L	129	ガソリンレギュラー	L	134			<input type="checkbox"/>

$$\begin{aligned}
 P' &= 1258.6 \\
 &\times \left(\left(\frac{0.45}{100} \times \frac{556}{615} \right) \times \frac{0.45}{0.45} \right) \\
 &+ \left(\frac{69.03}{100} \times \frac{16900 \times 1.2}{20200} + \frac{15.38}{100} \times \frac{21500 \times 1.2}{24200} + \frac{14.74}{100} \times \frac{20500 \times 1.2}{23200} \right) \times \frac{99.15}{69.03 + 15.38 + 14.74} \\
 &+ \left(\frac{0.4}{100} \times \frac{134}{129} \right) \times \frac{0.4}{0.4} \\
 &+ \left(\frac{0.45}{100} \times \frac{99.15}{100} \times \frac{0.4}{0.4} \right) = 1286.6800899474024292348978735 \approx 1287 \text{ [円/m}^2\text{]}
 \end{aligned}$$

2-2-8. 支給品の指定（施工パッケージ）

施工パッケージの材料単価には、支給品であることを示すフラグを設定できます。

材料を支給品に設定するには列「支給品」のチェックをONにします。

区分	構成比	代表機材 名称・規格	単位	東京 基準 単価	積算地区 名称・規格	単位	積算 地区 単価	演算子	係数	支給品
K	0.45									<input type="checkbox"/>
K1	0.45	ランマ 質量60～80kg	供用日	515	ランマ及びランマ[ランマ]損料 質量60～80kg	供用日	556			<input type="checkbox"/>
R	99.15									<input type="checkbox"/>
R1	69.03	普通作業員	人	20,200	普通作業員	人	16,900	*	1.2	<input type="checkbox"/>
R2	15.38	土木一般世話役	人	24,200	土木一般世話役	人	21,500	*	1.2	<input type="checkbox"/>
R3	14.74	特殊作業員	人	23,200	特殊作業員	人	20,500	*	1.2	<input type="checkbox"/>
Z	0.4									<input type="checkbox"/>
Z1	0.4	ガソリン レギュラー スタンド	L	129	ガソリン レギュラー	L	134			<input checked="" type="checkbox"/>
<p>①支給品費を含む単価 P' = 1258.6</p> $\times \left\{ \left(\frac{0.45}{100} \times \frac{556}{615} \right) \times \frac{0.45}{0.45} \right.$ $+ \left(\frac{69.03}{100} \times \frac{16900 \times 1.2}{20200} + \frac{15.38}{100} \times \frac{21500 \times 1.2}{24200} + \frac{14.74}{100} \times \frac{20500 \times 1.2}{23200} \right) \times \frac{99.15}{69.03 + 15.38 + 14.74}$ $+ \left(\frac{0.4}{100} \times \frac{134}{129} \right) \times \frac{0.4}{0.4}$ $\left. + \frac{100 - 0.45 - 99.15 - 0.4}{100} \right\} = 1286.6800899474024292348978735 \approx 1287 \text{ [円/m}^2\text{]}$ <p>②支給品費が控除された単価(p') = 1286.6800899474024292348978735 - 1258.6 × $\frac{0.4}{100} \times \frac{134}{129}$ = 1281.4505581644566928007893464 ≈ 1282 [円/m²]</p>										

支給品が設定されている場合の計算式は長くなります。

内容を確認するには、適宜、計算式部分をスクロールして調整してください。

2-2-9. 内訳の編集

単価の内訳等は任意の値に書き換えることができます。

ただし、以下の項目はシステム上の制約により編集することができません。

- ・ 積上の場合
 - 下位単価表の単価
 - 率計上項目の対象フラグ
 - 金額

- ・ 施工単価パッケージの場合
 - 標準単価
 - 構成比
 - 機械損料・労務単価の支給品フラグ

変更した内容を保存するには、複合単価として保存します。詳しくは「3-1. 複合単価の登録」をご覧ください。

3. 複合単価

単価一覧画面の上部のタブ「複合単価」を選択すると、以下のような複合単価の一覧画面が表示されます。ここでは、施工単価の計算結果を編集し保存した計算結果の一覧が表示されます（はじめは登録がないため空になっています）。

複合単価の使用方法については、次項より操作順に説明します。

3-1. 複合単価の登録

複合単価作成の基本的な流れは以下の通りとなります。

- ① 複合単価新規作成 → 新規作成する複合単価の名称・単位・施工数量を登録
- ② 複合化する最初の施工単価を選択し、各条件を設定し、計算を実行
- ③ ①で作成した複合単価に登録
- ④ 複合化する2番目の施工単価を選択し、各条件を設定し、計算を実行
- ⑤ ①で作成した複合単価に追加登録

複合化する施工単価が3つ以上ある場合については、④～⑤を繰り返し行い複合単価に追加登録を行ってください。

複合単価の使用方法については、以下で例に基づき説明します。

例として、700m² 当たりの掘削工（140m³）と上層路盤工（700m²）の複合単価を作成します。

① 単価一覧画面のタブ「複合単価」を開きます。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

施工単価 複合単価

複合単価の引き継ぎ ?

複合単価: 追加 削除 その他

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

名称 _____ 単位 _____ 単位数量 _____

_____ 単価 _____ 単位数量あたり _____ 施工日数 _____

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量	施工日数
複合単価が選択されていません。								

複合単価がありません。

単価表示 印刷

② 画面左の「複合単価」メニューから「追加」ボタンをクリックします。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

施工単価 複合単価

複合単価: 追加 削除 その他

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

名称 _____ 単位 _____

No	名称	規格	単位
複合単価がありません。			

- ③ 複合単価名称・単位・数量を入力して「OK」をクリックすると、新しい複合単価が作成されます。

複合単価情報の入力

名称 掘削・路盤複合単価

単位 m2 単位数量 700

OK キャンセル



楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

施工単価 複合単価

複合単価の引き継ぎ ?

複合単価: 追加 削除 その他

掘削・路盤複合単価

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

名称 掘削・路盤複合単価 単位 m2 単位数量 700

単価 0 単位数量あたり 0 施工日数 0

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量	施工日数
内訳がありません。施工単価タブから追加してください。								

単価表示 印刷

④ 単価一覧画面のタブ「施工単価」を開きます。

複合単価に追加したい施工単価（施工パッケージ）を選択し、条件を入力して単価計算画面を開いてください。

手順が不明な場合は、2-1. 単価一覧画面を参照してください。



⑤ 単価計算画面から複合単価の「新規登録」をクリックします。

複合単価計算画面のスクリーンショット。表には、掘削作業に関する材料（バックホウ、普通作業員、運転手、軽油）と単価、数量が記載されています。右側のメニューには「新規登録」ボタンが赤い枠で強調されています。

区分	構成比	代表機材名称・規格	単位	東京基準単価	積算地区名称・規格	単位	積算地区単価	演算子	係数	支給品
K	10.59									<input type="checkbox"/>
K1	10.59	バックホウ(クローラ型)【標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)】山積0.8m3(平積0.6m3)	供用日	20,600	バックホウ(クローラ型)【標準型・超低騒音型】積0.8m3	供用日	22,600			<input type="checkbox"/>
R	83.71									<input type="checkbox"/>
R1	73.93	普通作業員	人	22,300	普通作業員	人	19,100			<input type="checkbox"/>
R2	9.78	運転手(特殊)	人	25,300	運転手(特殊)	人	23,400			<input type="checkbox"/>
Z	5.7									<input type="checkbox"/>
Z1	5.7	軽油 バトル給油	L	136	軽油	L	131			<input type="checkbox"/>

計算式:

$$P' = 1176.7$$

$$\times \left(\left(\frac{10.59}{100} \times \frac{22600}{20600} \right) \times \frac{10.59}{10.59} \right)$$

$$+ \left(\frac{73.93}{100} \times \frac{19100}{22300} + \frac{9.78}{100} \times \frac{23400}{25300} \right) \times \frac{83.71}{73.93 + 9.78}$$

$$+ \left(\frac{5.7}{100} \times \frac{131}{136} \right) \times \frac{5.7}{5.7}$$

$$+ \frac{100 - 10.59 - 83.71 - 5.7}{100} = 1052.8563360813753966520527566 = 1053 \text{ [円/m}^3\text{]}$$

⑥ 追加先の複合単価選択画面が表示されますので、追加したい複合単価を選択して「OK」をクリックします。

複合単価の選択画面と、追加確認メッセージのスクリーンショット。最初の画面では「掘削・路盤複合単価」が選択されています。右側の画面は「複合単価「掘削・路盤複合単価」に追加しました。」というメッセージが表示されています。

- ⑦ 単価一覧画面のタブ「複合単価」を開くと、先ほどの単価が複合単価の内訳に追加されていることがわかります。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

施工単価 複合単価

複合単価: 追加 削除 その他

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

名称 掘削・路盤複合単価 単位 m2 単位数 700

単価 1,569 単位数あたり 1,098 施工日数 1

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量	施工日数
1	掘削		m3	1	1,098	1,098	220	1

単価表示 印刷

- ⑧ ④～⑥を追加したい内訳の数だけ繰り返します。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

施工単価 複合単価

複合単価: 追加 削除 その他

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

名称 掘削・路盤複合単価 単位 m2 単位数 700

単価 4,086 単位数あたり 2,860 施工日数 2

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量
1	掘削		m3	1	1,098	1,098	22
2	上層路盤(車道・路肩部)	[標準数量]平均仕上り厚 80mm	m2	1	1,762	1,762	23

単価表示 印刷

3-2. 内訳単価の数量変更

複合単価の内訳は、数量をクリックして変更することができます。金額・施工日数も連動します。

率らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

施工単価 複合単価

複合単価の引き継ぎ

複合単価: 追加 削除 その他

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

振削・路盤複合単価

名称 振削・路盤複合単価 単位 m2 単位数 700

単価 4,086 単位数あたり 2,860 施工日数 2

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工日
1	振削		m3	140	1,098	1,098	22
2	上層路盤(車道・路肩部)	[標準数量]平均仕上り厚 80mm	m2	1	1,762	1,762	23

単価表示 印刷



率らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

施工単価 複合単価

複合単価の引き継ぎ

複合単価: 追加 削除 その他

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

振削・路盤複合単価

名称 振削・路盤複合単価 単位 m2 単位数 700

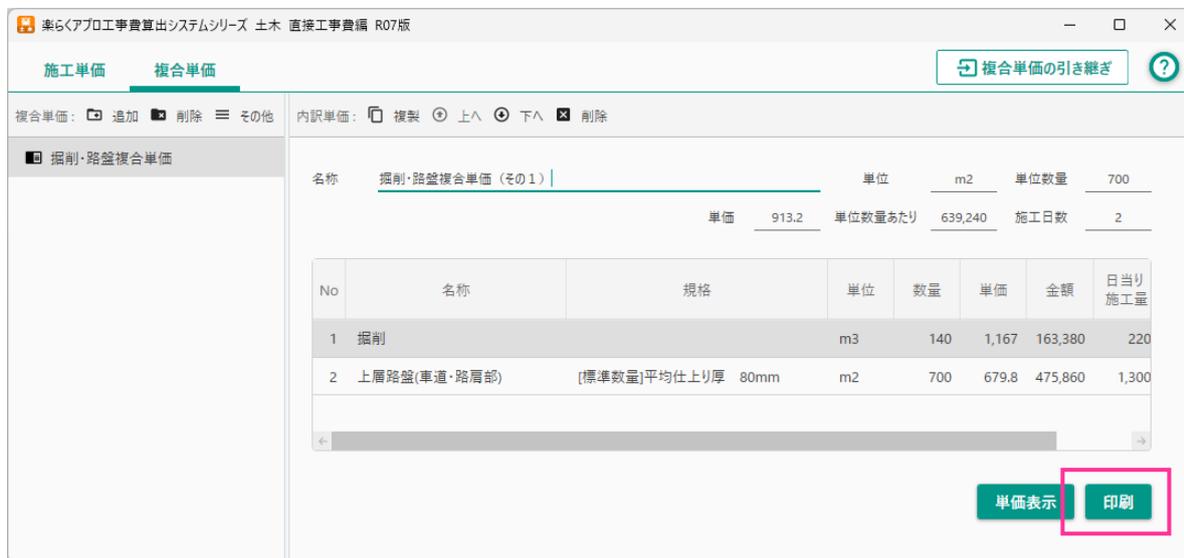
単価 1,982 単位数あたり 1,387,120 施工日数 5

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工日
1	振削		m3	140	1,098	153,720	22
2	上層路盤(車道・路肩部)	[標準数量]平均仕上り厚 80mm	m2	700	1,762	1,233,400	23

単価表示 印刷

3-3. 複合単価の印刷

複合単価の内訳を印刷するには、「印刷」をクリックします。



印刷プレビューが表示され、1m²（複合単価単位）当たりの単価、及び施工日数合計を確認することができます。



続けて根拠表も印刷されます。(以下は施工パッケージの例)

施工単価概観表印刷

Page 1 / 2

施工名称: 掘削
備考:
条件区分: 【J1】土質=土砂、【J2】施工方法=片切掘削

号数: 第1-1号
単位: 1m3当り
単価: 1,053円/m3

日当り施工量: 220m3
施工数量: 140m3
施工日数: 1日

区分	比率	代表機材:				積算地区:				係数	支給	
		名称/規格	単位	単価	名称/規格	単位	単価	名称/規格	単位			単価
K	10.59											
K1	10.59	1577ホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.8m3(平積0.6m3)	供用日	20,600	1577700D-5X標準・超低騒音]掘削 排封3次 山積0.8m3	供用日	22,600					
R	83.71											
R1	73.93	普通作業員	人	22,300	普通作業員	人	19,100					
R2	9.78	運転手(特殊)	人	25,300	運転手(特殊)	人	23,400					
Z	5.7											
Z1	5.7	軽油 バトロール給油	L	136	軽油	L	131					

$$\begin{aligned} & \times = 1176.7 \\ & \times \left[\left(\frac{10.59}{100} \times \frac{20600}{20600} \right) \times \frac{10.59}{10.59} \right. \\ & + \left(\frac{73.93}{100} \times \frac{19100}{22300} + \frac{9.78}{100} \times \frac{23400}{25300} \right) \times \frac{83.71}{73.93 + 9.78} \\ & + \left(\frac{5.7}{100} \times \frac{131}{136} \right) \times \frac{5.7}{5.7} \\ & + \left. \frac{100}{100} \times \frac{10.59}{100} + \frac{83.71}{100} + \frac{5.7}{100} \right] = 1052.8563360813753966520527566 \approx 1053 \text{ [円/m3]} \end{aligned}$$

3-4. 内訳単価の確認

複合単価内訳として登録された計算結果は、再び単価計算画面を開いて確認できます。

任意の単価を選択してボタン「単価表示」をクリックしてください。

複合単価の引き継ぎ

複合単価: 追加 削除 その他

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

掘削・路盤複合単価

名称	掘削・路盤複合単価	単位	m2	単価	1,982	単位数量あたり	1,387,120	施工日数	5
No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り施工量		
1	掘削		m3	140	1,098	153,720	220		
2	上層路盤(車道・路肩部)	[標準数量]平均仕上り厚 80mm	m2	700	1,762	1,233,400	230		

単価表示 印刷



計算結果

上層路盤(車道・路肩部)

施工名称 上層路盤(車道・路肩部) 単位 m2 日当り施工量 1,300

備考 [標準数量]平均仕上り厚 80mm 算出単価 1,532 施工数量 700

選択条件 【1】材料=瀝青安定処理材(40), 【2】平均幅員=1.4m以上3.0m以下, 【3】1層当り平均仕上り厚(mm)(実数入力)=35, 【6】瀝青材料種類=7 フライムト PK-3, 【7】費用の内訳=全ての費用 施工日数 1

区分	構成比	代表機材名称・規格	単位	東京基準単価	積算地区名称・規格	単位	積算地区単価	演算子	係数	支給品
K	1.37									
K1	0.88	アスファルトフィニッシュ [ホイール型] 舗装幅 1.4~3.0m	日	14,040	アスファルトフィニッシュ[ホイール]資料 舗装幅1.4~3.0m	日	15,145			
K2	0.18	振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンパインド式] 質量3~4t	日	3,510	振動ローラ資料 搭乗・コンパインド 質量3~4t	日	3,900			
K3	0.16	タイヤローラ 質量3~4t	日	3,250	タイヤローラ資料 質量3~4t	日	3,380			
R	11.18									
R1	3.8	普通作業員	人	22,300	普通作業員	人	19,100			
R2	2.62	特殊作業員	人	25,700	特殊作業員	人	22,800			
R3	2.58	運転手(特殊)	人	25,300	運転手(特殊)	人	23,400			
R4	0.9	土木一般世話役	人	26,500	土木一般世話役	人	25,200			
Z	87.45									
Z1	81.97	アスファルト混合物 (安定処理材) AS安定 処理(40)	t	9,700	安定処理路盤材 瀝青安定処理材(40)	t	13,450	*	0.4375	
Z2	5.21	アスファルト乳剤 PK-3 フライムト用	L	96	アスファルト乳剤 PK-3 フライムト用	L	117			
Z3	0.24	軽油 バトル給油	L	136	軽油	L	131			

P' = 2259.3

$$\times \left(\frac{0.88}{100} \times \frac{15145}{14040} + \frac{0.18}{100} \times \frac{3900}{3510} + \frac{0.16}{100} \times \frac{3380}{3250} \right) \times \frac{1.37}{0.88 + 0.18 + 0.16}$$

帳票 プレビュー 印刷 複合単価 更新 削除

通常の施工単価の計算画面と類似していますが、各種補正等の指定ができなくなり、

複合単価のメニュー「更新」「削除」が使用できるようになっています。

3-5. 内訳単価の更新

任意の複合単価内容を変更し、更新登録（上書き）することができます。

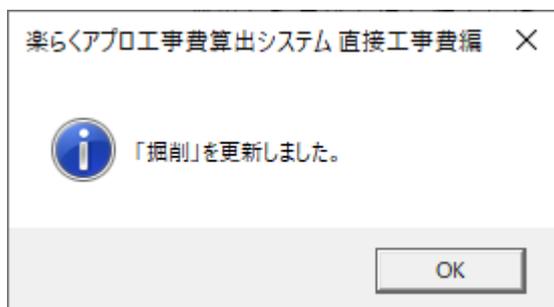
複合単価の計算結果画面を開き、内訳の編集や補正の設定等を行ってください。

変更した単価を保存するには、単価計算画面のメニュー「更新」を選択します。

区分	構成比	代表機券材名称・規格	単位	東京基準単価	積算地区名称・規格	単位	積算地区単価	演算子	係数	支給品
K	10.59									<input type="checkbox"/>
K1	10.59	バックホウ（クローラ型）【標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）】 山積	供用日	20,600	バックホウ(クローラ)【標準・超低騒音】填料 排対3次 山積0.8m3	供用日	22,600			<input type="checkbox"/>
R	83.71									<input type="checkbox"/>
R1	73.93	普通作業員	人	22,300	普通作業員	人	19,100			<input type="checkbox"/>
R2	9.78	運転手（特殊）	人	25,300	運転手(特殊)	人	23,400			<input type="checkbox"/>
Z	5.7									<input type="checkbox"/>
Z1	5.7	軽油 バトル給油	L	136	軽油	L	131			<input type="checkbox"/>

$$P' = 1176.7$$
$$\times \left\{ \left(\frac{10.59}{100} \times \frac{22600}{20600} \right) \times \frac{10.59}{10.59} \right.$$
$$+ \left(\frac{73.93}{100} \times \frac{19100}{22300} + \frac{9.78}{100} \times \frac{23400}{25300} \right) \times \frac{83.71}{73.93 + 9.78}$$
$$+ \left(\frac{5.7}{100} \times \frac{131}{136} \right) \times \frac{5.7}{5.7}$$
$$\left. + \frac{100 - 10.59 - 83.71 - 5.7}{100} \right\} = 1052.8568360813753966520527566 \approx 1053 \text{ [円/m}^3\text{]}$$

「更新」ボタンを選択すると、以下のメッセージが表示され、ユーザー単価の更新登録が完了します。



3-6. 複合単価名称・単位の編集

複合単価の名称・単位を変更することができます。

対象の複合単価を選択して、画面右の名称欄・単位欄で任意の値に変更します。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

施工単価 複合単価

複合単価の引き継ぎ ?

複合単価: 追加 削除 その他

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

掘削・路盤複合単価

名称	単位	単価	単位数量あたり	施工日数
掘削・路盤複合単価 (その1)	m2	913.2	639,240	2

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り施工量
1	掘削		m3	140	1,167	163,380	220
2	上層路盤(車道・路肩部)	[標準数量]平均仕上り厚 80mm	m2	700	679.8	475,860	1,300

3-7. 複合単価の削除

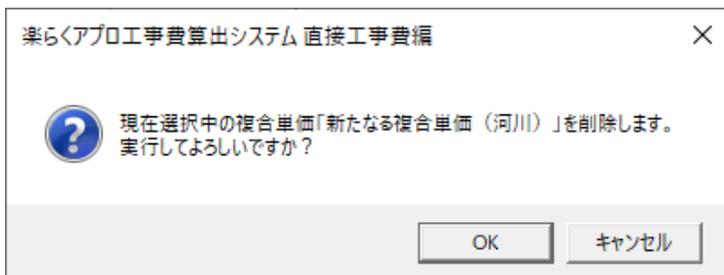
複合単価を削除するには、一覧から対象の複合単価を選択して、複合単価メニューの「削除」をクリックします。

(内訳単価メニューの「削除」と混同しないよう、ご注意ください)



複合単価を削除すると内訳に保存された計算結果も削除されます。

注意を促す確認メッセージが表示されるので、間違いがないか確認してください。



「OK」を選択すると、選択した複合単価とその内訳単価が全て削除されます。

3-8. 内訳単価の削除

複合単価の任意の内訳単価を削除することができます。

計算画面から削除する方法と、単価一覧画面から削除する方法があります。

3-8-1. 単価一覧画面から

複合単価内の内訳を右側の一覧で選択して、内訳単価のメニュー「削除」をクリックします。

(複合単価メニューの「削除」と混同しないよう、ご注意ください)



楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

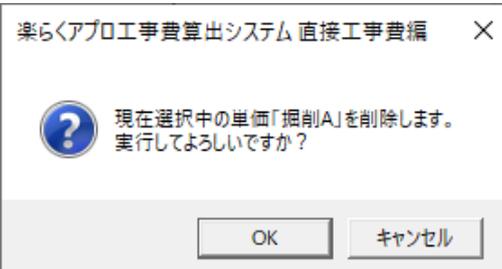
施工単価 複合単価 複合単価

複合単価: 追加 削除 その他 内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

新たな複合単価

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量
1	掘削A		m3	1	1,098	1,098	220
2	掘削B		m3	1	1,098	1,098	220
3	掘削C		m3	1	1,098	1,098	220

確認メッセージが表示されます。



楽らくアプロ工事費算出システム 直接工事費編

現在選択中の単価「掘削A」を削除します。
実行してよろしいですか?

OK キャンセル

問題なければ「OK」ボタンをクリックします。

複合単価の内訳から、対象の単価が削除されます。

3-8-2. 計算結果画面から

対象の内訳単価の計算結果画面を開きます。

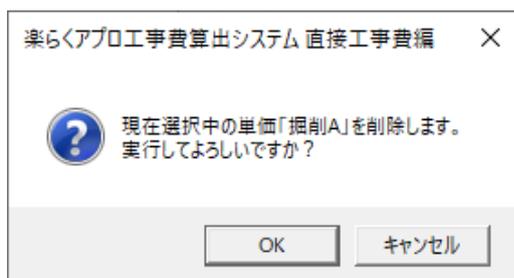
表示した単価を削除するには、単価計算画面のメニュー「削除」を選択します。

The screenshot shows a software window titled '計算結果' (Calculation Results) for '掘削A' (Excavation A). The main area displays a table of items with their unit prices and a sidebar with a '削除' (Delete) button highlighted in a red box.

区分	構成比	代表機材名称・規格	単位	東京基準単価	積算地区名称・規格	単位	積算地区単価	演算子	係数	支給品
K	55.28									<input type="checkbox"/>
K1	55.28	ブルド-ザ [湿地・排出ガス対策型 (第3次基準 供用日 30,600 プルド-ザ [湿地]填料 排対3次 20t級 値)] 20 t級	供用日	30,600	ブルド-ザ [湿地]填料 排対3次 20t級	供用日	33,600			<input type="checkbox"/>
R	24.97									<input type="checkbox"/>
R1	24.97	運転手 (特殊)	人	25,300	運転手 (特殊)	人	23,400			<input type="checkbox"/>
Z	19.75									<input type="checkbox"/>
Z1	19.75	軽油 バトル-ル給油	L	136	軽油	L	131			<input type="checkbox"/>

計算式:
$$P' = 317.09$$
$$\times \left(\left(\frac{55.28}{100} \times \frac{33600}{30600} \right) \times \frac{55.28}{55.28} \right)$$
$$+ \left(\frac{24.97}{100} \times \frac{23400}{25300} \right) \times \frac{24.97}{24.97}$$
$$+ \left(\frac{19.75}{100} \times \frac{131}{136} \right) \times \frac{19.75}{19.75}$$
$$+ \frac{100 \times 55.28 + 24.97 + 19.75}{100} = 326.02850786754049445885302641 \approx 326.1 \text{ [円/m}^3\text{]}$$

「削除」ボタンを選択すると以下の確認メッセージが表示されます。



「OK」をクリックすると表示中の内訳単価は削除され、単価一覧画面に戻ります。

3-9. 複合単価の複製

既存の複合単価を複製し、新たな複合単価として登録することができます。

対象の単価を選択して、複合単価メニューの「その他」をクリックします。

The screenshot shows the '楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版' window. The '複合単価' (Composite Unit Price) menu is active, and the 'その他' (Others) option is selected. The main area displays details for '複合単価その1' (Composite Unit Price No. 1) with a unit price of 3,327 and a unit quantity of 1. Below this is a table of components:

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額
1	掘削		m3	1	1,167	1,167
2	土砂等運搬	タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む	m3	1	2,160	2,160
3	残土等処分	材料費のみ	m3	1	0	0

「その他」メニューが展開されます。表示された「複製」をクリックします。

The screenshot shows the same software window, but now the '複製' (Copy) option is selected in the '複合単価' menu. The main area displays the same details for '複合単価その1' and the component table as in the previous screenshot.

選択された複合単価が複製されます。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版

施工単価 複合単価 複合単価の引き継ぎ ?

複合単価: 追加 削除 複製 内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

上へ 下へ

■ 複合単価その1

■ 複合単価その1

名称	複合単価その1	単位	式	単位数量	1
		単価	3,327	単位数量あたり	3,327
				施工日数	2

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額
1	掘削		m3	1	1,167	1,167
2	土砂等運搬	タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む	m3	1	2,160	2,160
3	残土等処分	材料費のみ	m3	1	0	0

3-10. 内訳単価の複製

複合単価内の任意の内訳単価を複製し、新たな内訳単価として登録することができます。

対象の内訳単価を選択して、内訳単価メニューの「複製」をクリックします。



複製した単価の登録先となる複合単価を選択する画面が開きます。



内訳単価の複製を登録する場所を指定して「OK」ボタンを選択します。

単価が複製され、内訳一覧上に表示されます。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R07版

施工単価 複合単価

複合単価: 追加 削除 その他

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

複合単価の引き継ぎ

新たな複合単価

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量	施工日数
1	掘削		m3	1	1,098	1,098	220	1
2	掘削		m3	1	1,098	1,098	220	1

名称 新たな複合単価 単位 式 単価数量 1

単価 2,196 単価数量あたり 2,196 施工日数 2

単価表示 印刷

3-11. 複合単価の引き継ぎ

他の環境・製品で作成した複合単価を引き継ぐことができます。

引き継ぎが可能な製品は、同年度・前年度の直接工事費編となります。

複合単価の性質上、引き継いだ単価はこの製品の単価と置き換わりませんのでご注意ください。

3-11-1. 同じ PC のアプロ製品から引き継ぎ

複合単価画面の「複合単価の引き継ぎ」をクリックします。

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額
1	掘削		m3	1	1,167	1,167
2	土砂等運搬	タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む	m3	1	2,160	2,160
3	残土等処分	材料費のみ	m3	1	0	0

引き継ぎ方法の選択画面が表示されます。「この PC から引き継ぎ」を選択します。

このPCから引き継ぎ

引き継ぎ用ファイルから引き継ぎ

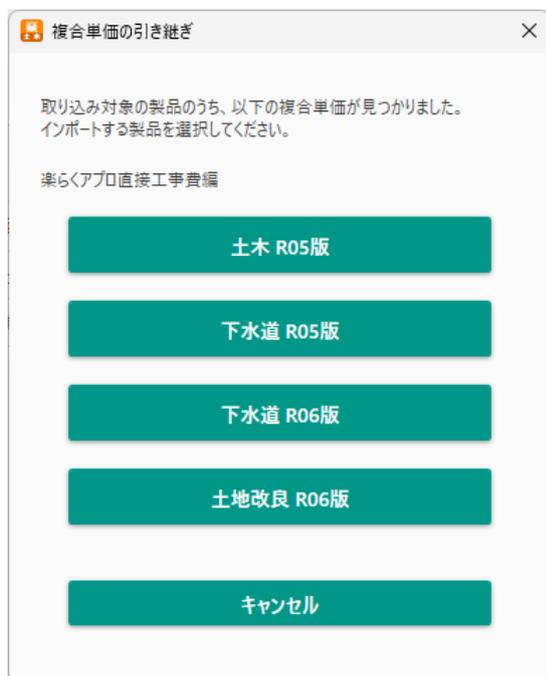
引き継ぎ用ファイルの出力

キャンセル

引き継ぎ元製品の選択画面が表示されます。

引き継ぎ対象製品のうち、同じ PC・ユーザー環境にインストールされた製品の複合単価がリスト表示されますので、対象となる製品を選択してください。

引き継ぎが可能な製品は、同年度・前年度の(土木)(下水)(土地改良)直接工事費編となっています。



次に、取り込む複合単価の選択画面が表示されます。

選択した製品に含まれる複合単価がリスト表示されますので、対象とする複合単価を選択してください。取り込んだ複合単価を見分けやすくするために、取り込んだ単価名称の先頭に任意の文字列を追加することもできます。



取り込みを完了すると、選択した複合単価が一覧の先頭に追加されます。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版

施工単価 複合単価 複合単価の引き継ぎ ?

複合単価: 追加 削除 その他 内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

R05 単価根拠 (1)
 R05 単価根拠 (2)
 R05 単価根拠 (3)
 複合単価その1
 複合単価その2

名称 R05 単価根拠 (1) 単位 式 単価 3,327 単価数量あたり 3,327 単位数量 1 施工日数 2

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額
1	掘削		m3	1	1,167	1,167
2	土砂等運搬	タイヤ損耗費及び補修費 (良好) を含む	m3	1	2,160	2,160
3	残土等処分	材料費のみ	m3	1	0	0

3-11-2. 異なる環境のアプロ製品から引き継ぎ

まず、引き継ぎ元となる環境で複合単価をファイル出力する必要があります。

複合単価画面の「複合単価の引き継ぎ」をクリックします。



引き継ぎ方法の選択画面が表示されます。「引き継ぎファイルの出力」を選択します。



ファイルの保存ダイアログが表示されますので、任意の場所にファイルを保存してください。

出力したファイルを、引き継ぎ先からアクセス可能な場所に保管し、次のステップに進みます。

次に、引き継ぎ先の環境で複合単価をファイルを読み込みます。

複合単価画面の「複合単価の引き継ぎ」をクリックします。



引き継ぎ方法の選択画面が表示されます。「引き継ぎファイルから引き継ぎ」を選択します。



ファイルを開くダイアログが表示されますので、出力したファイルを指定してください。

ファイルから引き継ぐ場合でも、引き継ぎ可能な製品は同年度・前年度の直接工事費編となっています。

選択したファイルに含まれる複合単価がリスト表示されますので、対象とする複合単価を選択してください。取り込んだ複合単価を見分けやすくするために、取り込んだ単価名称の先頭に任意の文字列を追加することもできます。



取り込みを完了すると、選択した複合単価が一覧の先頭に追加されます。



4. その他の利用方法について（計算事例集）

4-1. 費用の内訳条件について（1日未満で完了する作業の計算）（土木）

条件選択をする中で、「費用の内訳」という条件が出てくることがあります。

基本的には、「全ての費用」を選択します。

それ以外の回答につきましては変更積算時に使用するものであり、詳細については国土交通省土木工事標準積算基準書の総則内の「1日未満で完了する作業の積算」をご参照してご利用ください。

ただし、システムで対応できるのは以下の積算方法（1）のケースのみとなります。

4. 積算方法

1日未満で完了する作業の積算は、以下の方法によるものとする。

(1) 施工パッケージが1つ、かつ条件区分が1つの場合の積算方法

1) $x/D < 1/2$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、作業日当り標準作業量の1/2の量を実施した場合の金額を計上する。材料費は、作業量分の金額を計上する。

2) $1/2 \leq x/D < 1$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、作業日当り標準作業量を実施した場合の金額を計上する。材料費は、作業量分の金額を計上する。

楽らくアロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版

単価表示地区：北海道

施工単価 複合単価

名前 上層路盤(車道・路肩部)
規格
単位 m2

区分	条件名称	回答	回答名称
J1	材料	3	瀝青安定処理材(40)
J2	平均幅員	1	1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)
J3	1層当り平均仕上り厚(mm)(実数入力)	10	
J4	全仕上り厚(mm)(実数入力)	-	
J5	施工区分	-	
J6	瀝青材料種類	1	タックコート PK-4
J7	費用の内訳	1	全ての費用

基準書を見る 条件入力 計算実行

条件入力

条件番号 J7
条件名称 費用の内訳

回答一覧

番号	回答名称
1	全ての費用
2	機械費、労務費のみ(1日未満用)
3	材料費のみ(1日未満用)

前条件へ 次条件へ 閉じる

施工条件は2通り設定しています。

①機械費・労務費のみ（材料費は計上されません。）

②材料費のみ（機械費・労務費は計上されません。）

4-2. 1日未満の施工作成例（土木）

1日未満で完了する作業の積算について、本システムでは複合単価機能を使用して算出することが可能です。

システムでの表現方法を以下に載せますので、参照のうえご利用ください。

また、機械経費に係る燃料費については、実際の施工量分のみが計上されますので、ご注意ください。

1日未満の施工事例

施工パッケージ：床掘り

土質：土砂

施工方法：上記以外（小規模）

土留方式の種類：無し

障害の有無：有り

日当たり施工量（通常）：32m³/日

4-2-1. 施工量が 10m³ だった場合

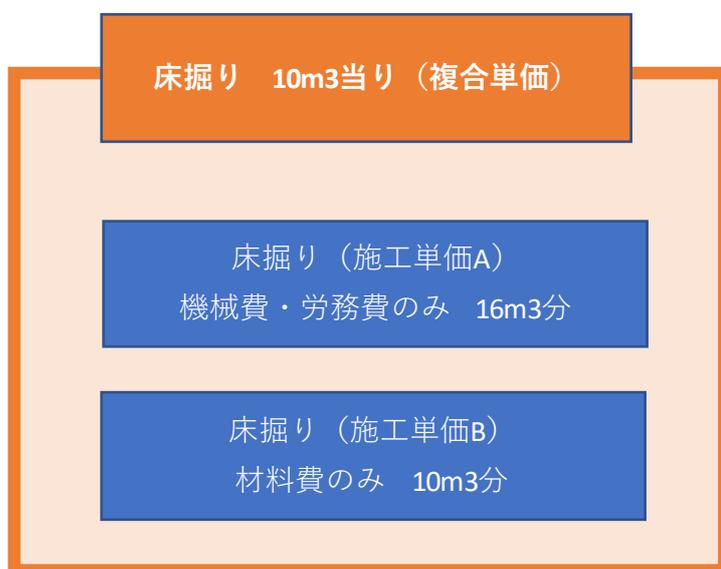
通常の日当たり施工量が 32m³ なので、1/2 以下の数量となります。

この場合、

機械費・労務費：1/2 となる 16m³ を計上します。

材料費：実際の施工量 10m³ を計上します。

作成例は以下の通りです。



1つの複合単価を床掘り 10m³ 当りとし、その内訳として

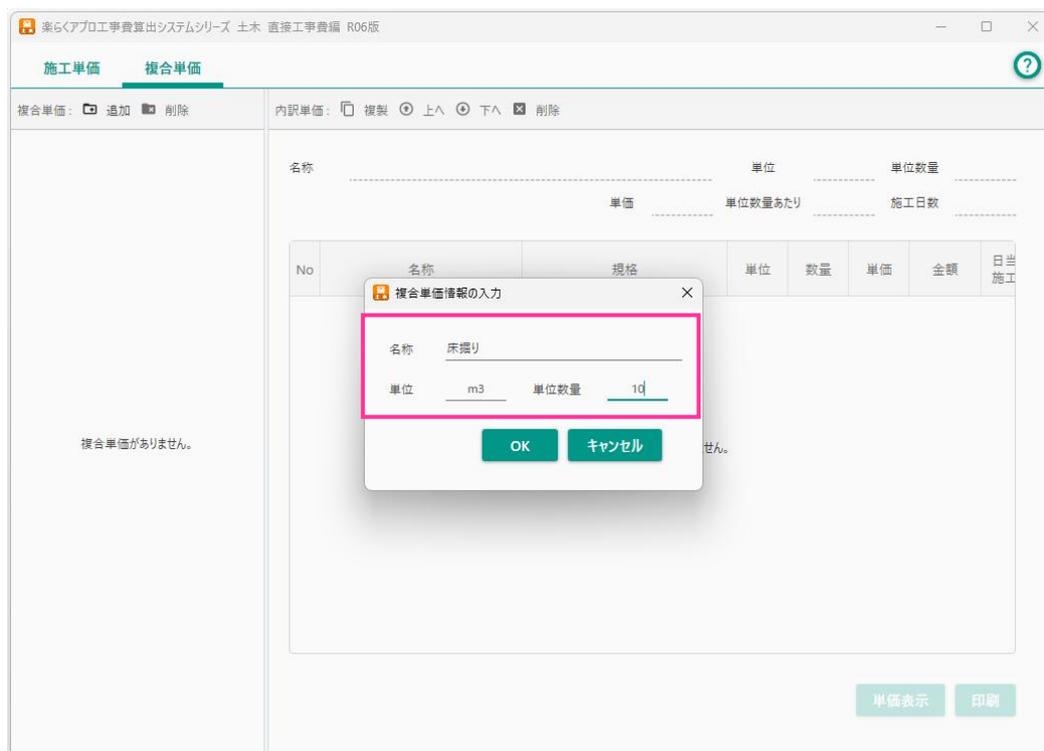
「床掘り (施工単価 A) ※機械費・労務費のみ」と

「床掘り (施工単価 B) ※材料費のみ」の

2つの施工単価をそれぞれ数量分計上します。

最後に複合単価の印刷機能を使用し、複合単価の数量で割り戻して 1m³ 当りの金額を算出します。

① 複合単価を新規で作成します。



② 条件設定時に「機械費・労務費のみ」を選択します。



③ 新規登録ボタンから複合単価に登録します。

④ 床掘りを選択し OK ボタンをクリックします。

⑤ 複合単価の床掘りに追加されています。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版

施工単価 複合単価

複合単価: 追加 削除

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

名称 床掘り 単位 m3 単位数量 10

単価 177.3 単位数量あたり 1,773 施工日数 0

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量	施工日数
1	床掘り		m3	1	1,773	1,773		

単価表示 印刷

⑥ 名称の変更ができますので、変更しておくとうわかりやすいです。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版

施工単価 複合単価

複合単価: 追加 削除

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

名称 床掘り 単位 m3 単位数量 10

単価 177.3 単位数量あたり 1,773 施工日数 0

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量	施工日数
1	床掘り (機械費・労務費のみ)		m3	1	1,773	1,773		

単価表示 印刷

⑦ 続いて「材料費のみ」を選択します。



⑧ 新規登録から複合単価に登録します。



④～⑥を参考に追加します。

⑨ 上記で説明した数量を設定します。

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 土木 直接工事費編 R06版

施工単価 複合単価

複合単価: 追加 削除

内訳単価: 複製 上へ 下へ 削除

名称 床掘り 単位 m3 単位数 10

単価 2,991 単位数あたり 29,906 施工日数 1

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量	施工日数
1	床掘り(機械費・労務費のみ)		m3	16	1,773	28,368		
2	床掘り(材料費のみ)		m3	10	153.8	1,538	32	1

単価表示 印刷

日当たり施工量は実際の数量を計上できるように「材料費のみ」を選択した際のみ計上されるようになっています。

⑩ 印刷ボタンを押すと、下記のようなイメージが表示されて印刷が可能です。

単 価 表 Page 1 / 1

単 価 表 名 称	床掘り						単 位:	10m3当り
名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	日 当 り 施 工 量	施 工 日 数	摘 要
床掘り(機械費・労務費のみ)		m3	16	1,773	28,368			第1-1号
床掘り(材料費のみ)		m3	10	153.8	1,538	32	1	第2-1号
計					29,906		1	
1m3当り					2,991			

4-2-2. 施工量が 25m³ だった場合

通常の日当たり施工量が 32m³ なので、1/2 以上の数量となります。

この場合、

機械費・労務費：1/2 以上なので 1 日分の 32m³ を計上します。

材料費：実際の施工量 25m³ を計上します。

作成例は以下の通りです。

① 「施工量が 10m³ だった場合」の①～⑧を行い、複合単価を作成します。

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り 施工量	施工日数
1	床掘り (機械費・労務費のみ)		m3	32	1,773	56,736		
2	床掘り (材料費のみ)		m3	25	153.8	3,845	32	1

数量を上記の通り設定します。

② 印刷ボタンを押すと、下記のようなイメージが表示されて印刷が可能です。

単 価 表									
単 価 表 名 称		床掘り					単位:	25m ³ 当り	
名 称	規格	単位	数量	単価	金額	日当り施工量	施工日数	摘要	
床掘り(機械費・労務費のみ)		m ³	32	1,773	56,736			第1-1号	
床掘り(材料費のみ)		m ³	25	153.8	3,845	32	1	第2-1号	
計					60,581		1		
1m ³ 当り					2,423				

1日未満の工事の算出方法は以上になります。

4-3. 支給品がある場合の計算例（土木・土地改良）

- ・施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・条件区分：早強 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・標準単価：50,809 円

→ 大阪地区の R3.4 における生コンクリートが支給された場合の施工パッケージ単位当たりの【支給品費】及び【支給品費が控除された積算単価】を算出

表 6：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(R2.4)(円)	大阪(R3.4) (円)
K		2.27	—	—
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.24	51,800	51,800
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.31	747	715
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.21	416	416
R		42.22	—	—
R1	普通作業員	15.40	21,500	19,000
R2	型わく工	9.72	26,000	25,800
R3	土木一般世話役	3.40	24,700	23,700
R4	特殊作業員	0.96	24,600	21,600
Z		44.00	—	—
Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	29.58	14,700	<u>21,600</u> (<u>早強 24-12-25(20)</u> (<u>支給品</u>))
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	12.58	69,000	79,500
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	1.25	64.5	66.2
Z4	軽油 1.2号 パトロール給油	0.51	116	110
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	11.51	65,000	52,500

※機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮定の単価とする。

【支給品費】

$$\text{支給品費} = 50,809 \times \frac{29.58}{100} \times \frac{21,600}{14,700} = 22,083.8726204 \dots \approx \mathbf{22,083}(\text{円/m}^3)$$

※支給品費は 1,000 円以上の場合、円未満切り捨て。1,000 円未満の場合は、小数位含め有効数字 4 桁とし、以降切り捨て。ただし、小数第 2 位までとし、3 位以下は切り捨てる。

【支給品費が控除された積算単価】

$$\begin{aligned} \text{支給品費が控除された積算単価} &= (\text{端数調整なしの積算単価}) - (\text{端数調整なしの支給品費}) \\ &= 56,178.0660592 \dots - 22,083.8726204 \dots = 34,094.1934388 \dots \approx \mathbf{34,100}(\text{円/m}^3) \end{aligned}$$

※ 1. 端数調整なしの積算単価 (56,178.0660592...) は「②代表材料以外の規格により積算する場合の計算例」内の計算式を参照

※ 2. 支給品費が控除された積算単価は、端数調整した場合の積算単価 (56,180 円/m³) と同じ単位止め (以降切り上げ) とする。今回の計算例では、1 円の位以降を切り上げ。

1) 端数調整した場合の積算単価が 561.8 円/m³ の場合、小数第 2 位以降を切り上げ。

2) 端数調整した場合の積算単価が 5.618 円/m³ の場合、小数第 1 位以降を切り上げ。

上記の例をシステムにて表現する際には、支給品にチェックを入れます。

◀ 戻る
L型擁壁

施工名称	L型擁壁	単位	m3	日当り施工量	4	補正
備考		算出単価	56,180	施工数量	1	単価地区表示
選択条件	【1】コンクリート規格=24-12-25(早強), 【2】鉄筋量=0.08t/m3以上0.10t/m3未満, 【3】鉄筋工の労務補正=標準(1.0), 【4】基礎砕石の有無=有り, 【5】均しコンクリートの有無=有り, 【6】養生工の種類=仮囲い内シールド養生, 【7】圧送管延長距離区分=延長無し				施工日数	1

区分	構成比	代表機労材名称・規格	単位	東京基準単価	積算地区名称・規格	単位	積算地区単価	演算子	係数	支給品
K	2.27									<input type="checkbox"/>
K1	1.24	コンクリートポンプ車〔トラック架装・ブーム式〕 圧送能力90～110m3/h	供用日	51,800	コンクリートポンプ車〔トラック架装・ブーム式〕 110m3/h	供用日	51,800			<input type="checkbox"/>
K2	0.31	業務用可搬型ヒータ〔ジェットヒータ〕 熱風・直火型 熱出力126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	日	747	ジェットヒータ 126MJ/h	日	715			<input type="checkbox"/>
K3	0.21	発電発電機〔ディーゼルエンジン駆動〕 定格容量(50/60Hz) 2,7/3kVA	供用日	416	発電発電機〔ディーゼルエンジン駆動〕 2.7/3kVA	供用日	416			<input type="checkbox"/>
R	42.22									<input type="checkbox"/>
R1	15.4	普通作業員	人	21,500	普通作業員	人	19,000			<input type="checkbox"/>
R2	9.72	型わく工	人	26,000	型わく工	人	25,800			<input type="checkbox"/>
R3	3.4	土木一般世帯役	人	24,700	土木一般世帯役	人	23,700			<input type="checkbox"/>
R4	0.96	特殊作業員	人	24,600	特殊作業員	人	21,600			<input type="checkbox"/>
Z	44									<input type="checkbox"/>
Z1	29.58	生コンクリート 高炉 W/C 55%	m3	14,700	生コンクリート(早強) 24-12-25(20)	m3	21,600			<input type="checkbox"/>
Z2	12.58	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16～25	t	69,000	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16～25	t	79,500			<input type="checkbox"/>
Z3	1.25	灯油 白灯油 業務用 ミロ-リー	L	64.5	灯油 白灯油 業務用	L	66.2			<input type="checkbox"/>
Z4	0.51	軽油 1.2号 パトロール給油	L	116	軽油 1.2号	L	110			<input type="checkbox"/>
S	11.51									<input type="checkbox"/>
S1	11.51	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	t	65,000	鉄筋工 一般構造物	t	52,500	*	1	<input type="checkbox"/>

P' = 50809

$$\times \left\{ \left(\frac{1.24}{100} \times \frac{51800}{51800} + \frac{0.31}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \right.$$

$$+ \left(\frac{15.4}{100} \times \frac{19000}{21500} + \frac{9.72}{100} \times \frac{25800}{26000} + \frac{3.4}{100} \times \frac{23700}{24700} + \frac{0.96}{100} \times \frac{21600}{24600} \right) \times \frac{42.22}{15.4 + 9.72 + 3.4 + 0.96}$$

$$+ \left(\frac{29.58}{100} \times \frac{21600}{14700} + \frac{12.58}{100} \times \frac{79500}{69000} + \frac{1.25}{100} \times \frac{66.2}{64.5} + \frac{0.51}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{44}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51}$$

$$\left. + \frac{11.51}{100} \times \frac{52500}{65000} \times 1 + \frac{100}{100} \times \frac{2.27}{100} + \frac{42.22}{100} + \frac{44}{100} + \frac{11.51}{100} \right\} = 56178.066058276548819553912658 \approx 56180 \text{ [円/m3]}$$

まずは支給品にチェックを入れていない場合です。

支給品が控除された金額は算出されていません。

なお単価については、上記の例に合わせるため、手入力で変更しています。

4. その他の利用方法について (計算事例集) ● 73

積算結果											-	□	×	
L型擁壁											戻る	L型擁壁		
施工名称		L型擁壁			単位	m3		日当り施工量	4		補正			
備考					算出単価	34,100		施工数量	1		単価地区表示			
選択条件		【J1】コンクリート規格=24-12-25(早強), 【J2】鉄筋量=0.08t/m3以上0.10t/m3未満, 【J3】鉄筋工の労務補正=標準(1.0), 【J4】基礎砕石の有無=有り, 【J5】均しコンクリートの有無=有り, 【J6】養生工の種類=仮囲い内ジェット養生, 【J7】圧送管延長距離区分=延長無し						施工日数	1		大阪			
区分	構成比	代表機材名称・規格	単位	東京基準単価	積算地区名称・規格	単位	積算地区単価	演算子	係数	支給品	補正なし			
K 2.27											労務費割増			
K1	1.24	コンクリートポンプ重〔トラック架装・ブーム式〕圧送能力90~110m3/h	供用日	51,800	コンクリートポンプ重〔トラック架装・ブーム式〕110m3/h	供用日	51,800				<input type="checkbox"/> 割増率 1.5			
K2	0.31	業務用可搬型ヒータ〔ジェットヒータ〕〔油だき・熱風・直火型〕熱出力126MJ/h(30,100kcal/h) 油種 灯油	日	747	ジェットヒータ 126MJ/h	日	715				概票			
K3	0.21	発動発電機〔ディーゼルエンジン駆動〕定格容量(50/60Hz) 2.7/3kVA	供用日	416	発動発電機〔ディーゼルエンジン駆動〕2.7/3kVA	供用日	416				<input type="checkbox"/> プレビュー <input type="checkbox"/> 印刷			
R 42.22											複合単価			
R1	15.4	普通作業員	人	21,500	普通作業員	人	19,000				<input checked="" type="checkbox"/> 新規登録			
R2	9.72	型わく工	人	26,000	型わく工	人	25,800				更新			
R3	3.4	土木一般世話役	人	24,700	土木一般世話役	人	23,700				削除			
R4	0.96	特殊作業員	人	24,600	特殊作業員	人	21,600							
Z 44														
Z1	29.58	生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C 55%	m3	14,700	生コンクリート(早強) 24-12-25(20)	m3	21,600			<input checked="" type="checkbox"/>				
Z2	12.58	鉄筋コンクリート用擁鋼 SD345 D16~25	t	69,000	鉄筋コンクリート用擁鋼 SD345 D16~25	t	79,500							
Z3	1.25	灯油 白灯油 業務用 ミニローラー	L	64.5	灯油 白灯油 業務用	L	66.2							
Z4	0.51	軽油 1, 2号 バトル給油	L	116	軽油 1,2号	L	110							
S 11.51														
S1	11.51	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	t	65,000	鉄筋工 一般構造物	t	52,500	*	1					
①支給品費を含む単価 P' = 60809 $\times \left(\left(\frac{1.24 \times 51800}{100} + \frac{0.31 \times 715}{100} + \frac{0.21 \times 416}{100} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} + \left(\frac{15.4 \times 19000}{100} + \frac{9.72 \times 25800}{100} + \frac{3.4 \times 23700}{100} + \frac{0.96 \times 21600}{100} \right) \times \frac{42.22}{16.4 + 9.72 + 3.4 + 0.96} + \left(\frac{29.58 \times 21600}{100} + \frac{12.58 \times 79500}{100} + \frac{1.25 \times 66.2}{100} + \frac{0.51 \times 110}{100} \right) \times \frac{44}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} + \frac{11.51 \times 52500 \times 1}{100} + \frac{100 \times 2.27 \times 42.22 \times 44 \times 11.51}{100} \right) = 56178.066059276548819553912658 \approx 56180 \text{ [円/m3]}$														
②支給品費が控除された単価(p') = 56178.066059276548819553912658 - 50809 × $\frac{29.58 \times 21600}{100}$ = 34034.193438868385554247790209 ≈ 34100 [円/m3]														

チェックを入れると支給品が控除された単価が計算されます。

4-4. 時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条 件 区 分：高炉 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、
基礎碎石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、
圧送管延長無し
- ・ 標 準 単 価：50,809 円

→ 大阪地区の R3.4 おける **労務費 20%割増** の積算単価を算出

表 5：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(R2.4)(円)	大阪(R3.4)(円)
K		2.27	—	—
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.24	51,800	51,800
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・ 直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.31	747	715
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.21	416	416
R		42.22	—	—
R1	普通作業員	15.40	21,500	<u>22,800</u> <u>(19,000×1.2)</u>
R2	型わく工	9.72	26,000	<u>30,960</u> <u>(25,800×1.2)</u>
R3	土木一般世話役	3.40	24,700	<u>28,440</u> <u>(23,700×1.2)</u>
R4	特殊作業員	0.96	24,600	<u>25,920</u> <u>(21,600×1.2)</u>
Z		44.00	—	—
Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	29.58	14,700	20,000
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	12.58	69,000	79,500
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	1.25	64.5	66.2
Z4	軽油 1.2号 パトロール給油	0.51	116	110
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	11.51	65,000	52,500

※機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{大阪 R3.4}) = 50,809$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.24}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.31}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \right. \\
 & + \left(\frac{15.40}{100} \times \frac{22,800}{21,500} + \frac{9.72}{100} \times \frac{30,960}{26,000} + \frac{3.40}{100} \times \frac{28,440}{24,700} + \frac{0.96}{100} \times \frac{25,920}{24,600} \right) \times \frac{42.22}{15.40 + 9.72 + 3.40 + 0.96} \\
 & + \left(\frac{29.58}{100} \times \frac{20,000}{14,700} + \frac{12.58}{100} \times \frac{79,500}{69,000} + \frac{1.25}{100} \times \frac{66.2}{64.5} + \frac{0.51}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{44.00}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} \\
 & + \frac{11.51}{100} \times \frac{52,500}{65,000} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.27 - 42.22 - 44.00 - 11.51}{100} \right\} = 58,520.9981022 \dots \approx 58,530(\text{円/m}^3)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

上記の例をシステムにて表現する際には、画面右側の労務費割増機能を使います。

✖
✖
L型擁壁

施工名称	L型擁壁	単位	m3	日当り施工量	4	
備考		算出単価	54,540	施工数量	1	
選択条件	【J1】コンクリート規格=24-12-25(早強), 【J2】鉄筋量=0.08t/m3以上0.10t/m3未満, 【J3】鉄筋工の労務補正=標準(1.0), 【J4】基礎砕石の有無=有り, 【J5】均しコンクリートの有無=有り, 【J6】養生工の種類=仮囲い内ジェット養生, 【J7】圧送管延長距離区分=延長無し				施工日数	1

区分	構成比	代表機材名 名称・規格	単位	東京 基準 単価	積算地区 名称・規格	単位	積算 地区 単価	演算子	係数	支給品	
K	2.27										
K1	1.24	コンクリートポンプ車【トラック架装・ブーム式】 圧送能力90～110m3/h	供用日	51,800	コンクリートポンプ車【トラック架装・ブーム式】 110m3/h	供用日	51,800				
K2	0.31	業務用可搬型ヒータ【ジェットヒータ】 熱風・直火型 熱出力126MJ/h(30,100kcal/h) 油種 灯油	日	747	ジェットヒータ 126MJ/h	日	715				
K3	0.21	電動発電機【ディーゼルエンジン駆動】 定格容量(50/60Hz)2,7/3kVA	供用日	416	電動発電機【ディーゼルエンジン駆動】 2.7/3kVA	供用日	416				
R	42.22										
R1	15.4	普通作業員	人	21,500	普通作業員	人	19,000				
R2	9.72	型わく工	人	26,000	型わく工	人	25,800				
R3	3.4	土木一般世話役	人	24,700	土木一般世話役	人	23,700				
R4	0.96	特殊作業員	人	24,600	特殊作業員	人	21,600				
Z	44										
Z1	29.58	生コンクリート 高戸 24-12-25(20) W/C 55%	m3	14,700	生コンクリート(早強) 24-12-25(20)	m3	20,000				
Z2	12.58	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16~25	t	69,000	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16~25	t	79,500				
Z3	1.25	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	L	64.5	灯油 白灯油 業務用	L	66.2				
Z4	0.51	軽油 1, 2号 バトル給油	L	116	軽油 1.2号	L	110				
S	11.51										
S1	11.51	鉄筋工 加工・組立 一般構造物	t	65,000	鉄筋工 一般構造物	t	52,500	*	1		

P' = 50809

$$\begin{aligned} & \times \left(\left(\frac{1.24}{100} \times \frac{51800}{51800} + \frac{0.31}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \right. \\ & + \left(\frac{15.4}{100} \times \frac{19000}{21500} + \frac{9.72}{100} \times \frac{25800}{26000} + \frac{3.4}{100} \times \frac{23700}{24700} + \frac{0.96}{100} \times \frac{21600}{24600} \right) \times \frac{42.22}{15.4 + 9.72 + 3.4 + 0.96} \\ & + \left(\frac{29.58}{100} \times \frac{20000}{14700} + \frac{12.58}{100} \times \frac{79500}{69000} + \frac{1.25}{100} \times \frac{66.2}{64.5} + \frac{0.51}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{44}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} \\ & \left. + \frac{11.51}{100} \times \frac{52500 \times 1}{65000} + \frac{100 - 2.27 - 42.22 - 44 - 11.51}{100} \right) = 54539.243966417547295447002134 \approx 54540 \text{ [円/m}^3\text{]} \end{aligned}$$

労務費割増
 割増率 1.2

まだチェックを入れていない状態です。

単価は変更されておらず、通常の積算結果が表示されます。

なお単価については、上記の例に合わせるため、手入力で変更しています。

4. その他の利用方法について（計算事例集） ● 76

積算結果

戻る L型擁壁

施工名称 L型擁壁 単位 m3 日当り施工量 4 補正
備考 算出単価 58,530 施工数量 1 単価地区表示
選択条件 【J1】コンクリート規格=24-12-25(早強), 【J2】鉄筋量=0.08t/m3以上0.10t/m3未満, 【J3】鉄筋工の労務補正=標準(1.0), 【J4】基礎砕石の有無=有り, 【J5】均しコンクリートの有無=有り, 【J6】養生工の種類=仮囲い内ジェットヒータ養生, 【J7】圧送管延長距離区分=延長無し 大阪
補正なし
休日2日補正

区分	構成比	代表機材名 名称・規格	単位	東京 基準 単価	積算地区 名称・規格	単位	積算 地区 単価	演算子	係数	支給品	
K 2.27											
K1	1.24	コンクリートポンプ車【トラック架装・ブーム式】 圧送能力90～110m3/h	供用日	51,800	コンクリートポンプ車【トラック架装・ブーム式】 積料90～110m3/h	供用日	51,800				
K2	0.31	業務用可搬型ヒータ【ジェットヒータ】 【油だき・熱風・直火型】熱出力126MJ/h(30,100kcal/h)油種 灯油	日	747	ジェットヒータ材料126MJ/h	日	715				
K3	0.21	発電発電機【ディーゼルエンジン駆動】 定格容量(50/60Hz)2.7/3kVA	供用日	416	発電発電機【ディーゼルエンジン駆動】 積料2.7/3kVA	供用日	416				
R 42.22											
R1	15.4	普通作業員	人	21,500	普通作業員	人	22,800				
R2	9.72	型わく工	人	26,000	型わく工	人	30,960				
R3	3.4	土木一般世話役	人	24,700	土木一般世話役	人	28,440				
R4	0.96	特殊作業員	人	24,600	特殊作業員	人	25,920				
Z 44											
Z1	29.58	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	m3	14,700	生コンクリート(早強) 24-12-25(20)	m3	20,000				
Z2	12.58	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	t	69,000	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16～25	t	79,500				
Z3	1.25	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	L	64.5	灯油 白灯油 業務用	L	66.2				
Z4	0.51	軽油 1.2号 バトル給油	L	116	軽油 1.2号	L	110				
S 11.51											
S1	11.51	鉄筋工 加工・組立共 一般搬運物	t	65,000	鉄筋工 一般搬運物	t	52,500	*	1		

P' = 50809

$$\begin{aligned} & \times \left(\frac{1.24}{100} \times \frac{51800}{51800} + \frac{0.31}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.27}{1.24 + 0.31 + 0.21} \\ & + \left(\frac{15.4}{100} \times \frac{22800}{21500} + \frac{9.72}{100} \times \frac{30960}{26000} + \frac{3.4}{100} \times \frac{28440}{24700} + \frac{0.96}{100} \times \frac{25920}{24600} \right) \times \frac{42.22}{15.4 + 9.72 + 3.4 + 0.96} \\ & + \left(\frac{29.58}{100} \times \frac{20000}{14700} + \frac{12.58}{100} \times \frac{79500}{69000} + \frac{1.25}{100} \times \frac{66.2}{64.5} + \frac{0.51}{100} \times \frac{110}{116} \right) \times \frac{44}{29.58 + 12.58 + 1.25 + 0.51} \\ & + \frac{11.51}{100} \times \frac{52500 \times 1}{65000} + \frac{100 - 2.27 - 42.22 - 44 - 11.51}{100} = 58520.998102246965746375392082 \approx 58530 \text{ [円/m}^3\text{]} \end{aligned}$$

労務費割増
 割増率 1.2

概要
 プレビュー
 印刷
 複合単価
 新規登録
 更新
 削除

画面右側の労務費割増にチェックを入れた状態です。

労務単価が補正され、補正された積算結果が算出されます。

割増率については、下記ボタンをクリックすることで変更できます。

労務費割増

割増率 1.2

労務費割増率

労務費割増率 1.2

OK キャンセル

夜間作業の場合での利用上の注意点 事例集

ケース1：土木編 機械賃料を含む施工単価の夜間補正手順

割増率	時間外料金割増（1時間当たり）	%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
〃	深夜〃（〃）	〃	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
〃	休日〃（〃）	〃	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
保証日数	保証日数（月極料金）	日	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
長期割引率	1カ月以上 （クローラクレーンを除く）	%	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20

（上表：「建設物価」 移動式クレーン作業料金より）

施工条件の入力手順

- ① 条件入力画面で機械賃料補正係数の標準以外（実数入力）を選択（図-1参照）
- ② 次の条件入力で深夜割増率を実数入力（例 30%⇒1.3 と入力）（図-1参照）
- ③ 計算実行後、画面右側の労務費割増にチェックを入れる（例 1.5 を選択）（図-2）

（図-1）

名前	掘削補助機械搬入搬出		
規格			
単位	回		
区分	条件名称	回答	回答名称
J1	ラフレッククレーン賃料補正係数	2	標準以外(実数入力)
J2	ラフレッククレーン賃料補正係数	1.3	

（図-2）

◀ 戻る **掘削補助機械搬入搬出**

施工名称		掘削補助機械搬入搬出		単位	回	日当り施工量	3.3	補正			
備考				算出単価	65,450	施工数量	1	単価地区表示			
選択条件		【J1】ラフレッククレーン賃料補正係数=標準以外(実数入力)、【J2】ラフレッククレーン賃料補正係数=1.3				施工日数	1	東京			
区分	構成比	代表機労材 名称・規格	単位	東京 基準 単価	積算地区 名称・規格	単位	積算 地区 単価	演算子	係数	支給品	労務費割増
K	25.83										運休2日補正
K1	25.83	ラフレッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 吊	1 6 t	日	39,200	ラフレッククレーン賃料 油圧伸縮ジブ 16t吊	日	39,200	*	1.3	補正なし
R	74.17										労務費割増
R1	74.17	特殊作業員	人	26,700	特殊作業員	人	42,450				<input checked="" type="checkbox"/> 割増率 1.5
$P' = 49200$ $\times \left\{ \left(\frac{25.83}{100} \times \frac{39200 \times 1.3}{39200} \right) \times \frac{25.83}{25.83} \right.$ $+ \left(\frac{74.17}{100} \times \frac{42450}{26700} \right) \times \frac{74.17}{74.17}$ $\left. + \frac{100 - 25.83 - 74.17}{100} \right\} = 65448.417438202247191011295954 \approx 65450 \text{ [円/回]}$											

帳票

プレビュー

印刷

複合単価

新規登録

ケース2：土木編 生コン打設 生コン夜間割増し設定の場合

施工条件の入力手順

- ① 生コンクリートの夜間割増の有無において、有りを選択（図-1 参照）
- ② 計算実行後、画面右側の労務費割増にチェックを入れる（例 1.5 を選択）（図-2 参照）
- ③ 生コンクリート夜間割増額の単価欄に、単価を入力（例 10500 円/m³）（図-2 参照）

※ m³単価の算出が難しい場合は0円にて別途複合単価等で算出。

※ 生コンクリート夜間割増額の条件入力がないケースもあります。この場合コンクート各種を選択、もしくは計算実行後の画面で生コンクリート単価の夜間割増額を足した単価で入力してください。

（図-1）

名前	コンクリート打設工		
規格	(縦排水溝・小段排水溝・防草Co)		
単位	m2		
区分	条件名称	回答	回答名称
J1	対象構造物		
J2	施工区分		
J3	生コンクリート規格		
J4	生コンクリートの夜間割増の有無		
J5	生コンクリート使用量		
J6	目地材の有無		
J7	ラフレングレン賃料補正係数		
J8	ラフレングレン賃料補正係数		

（図-2）

施工名称	コンクリート打設工	単位	m2	単位数量	100	日当り施工量	43	補正	
施工規格	(縦排水溝・小段排水溝・防草Co)	単価	44,920	単位数量あたり	4,492,000	施工数量	100	単価地区表示	
選択条件	【J1】対象構造物=縦排水溝, 【J2】施工区分=ラフレングレン, 【J3】生コンクリート規格=18-8-25(20)(普通), 【J4】生コンクリートの夜間割増の有無=有り, 【J5】生コンクリート使用量=103m3/100m2, 【J6】目地材の有無=無し, 【J7】ラフレングレン賃料補正係数=標準以外, 【J8】ラフレングレン賃料補正係数=1.3						施工日数	3	東京
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要		選休2日補正	
土木一般世話役		人	3.9	46,500	181,350			補正なし	
特殊作業員		人	5	42,450	212,250			労務費割増	
普通作業員		人	7.2	38,100	274,320			<input checked="" type="checkbox"/> 割増率 1.5	
生コンクリート(普通)	18-8-25(20)	m3	124.63	19,300	2,405,359			帳票	
生コンクリート夜間割増額		m3	124.63	10,500	1,308,615			<input type="checkbox"/> プレビュー	
ラフレングレン賃料	油圧伸縮ゾア 25t吊	日	1.9	57,200	108,680			<input type="checkbox"/> 印刷	
諸雑費(率+まるめ)		%	0.3	667,920	1,426			複合単価	
								<input type="checkbox"/> 新規登録	

ケース3：土木編 施工パッケージ内に市場単価（鉄筋工等）で構成される場合

施工条件の入力手順

- ① 鉄筋工の労務補正 夜間作業の場合（1.25）を選択（図-1参照）
- ② 計算実行後、画面右側の労務費割増にチェックを入れる（例 1.5 を選択）（図-2参照）
- ③ 市場単価（鉄筋工）は 1.25 割増し計算後の単価となっています。

（図-1）

区分	条件名称	回答	回答名称
J1	作業区分	1	据付
J2	管径	2	250mm
J3	固定基礎	3	360°巻き
J4	基礎砕石の有無	2	無し
J5	規格	3	各種
J6	ラフレコンクリート賃料補正係数	-	
J7	生コンクリート規格	3	18-8-25(20)(高炉)
J8	鉄筋工の労務補正	3	夜間作業の場合(1.25)
J9	費用の内訳	1	全ての費用
J10	ラフレコンクリート賃料補正係数	-	

（図-2）

積算結果

戻る ヒューム管(B形管)

施工名称 ヒューム管(B形管) 単位 m 日当り施工量 7

備考 算出単価 42,810 施工数量 1

選択条件 【J1】作業区分=据付, 【J2】管径=250mm, 【J3】固定基礎=360°巻き, 【J4】基礎砕石の有無=無し, 【J5】規格=各種, 【J7】生コンクリート規格=18-8-25(20)(高炉), 【J8】鉄筋工の労務補正=夜間作業の場合(1.25), 【J9】費用の内訳=全ての費用 施工日数 1

区分	構成比	代表機材名称・規格	単位	東京基準単価	積算地区名称・規格	単位	積算地区単価	演算子	係数	支給品
K	1.48									
K1	1.33	バックホウ(クローラ型)後方超小旋回型・クレーン機能付 山積0.45m3(平積0.35m3)吊能力2.9t	日	7,150	バックホウ(クローラ)後方超小旋回型 山積0.45m3 2.9t吊	日	7,150			
R	59.94									
R1	19.43	普通作業員	人	23,900	普通作業員	人	38,100			
R2	13.51	型わく工	人	27,500	型わく工	人	45,000			
R3	8.37	土木一般世帯役	人	28,900	土木一般世帯役	人	46,500			
R4	4.05	特殊作業員	人	26,700	特殊作業員	人	42,450			
Z	35.16									
Z1	15.89	ヒューム管 外圧管 B形1種 径250mm x長さ2,000mm	本	9,550	ヒューム管	本	12,000			
Z2	12.43	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	m3	17,850	生コンクリート(高炉)18-8-25(20)	m3	19,300			
Z3	5.89	鉄筋コンクリート用棒鋼 S D 3 4 5 D 1 3	t	123,000	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	t	121,000			
Z4	0.85	軽油 バトル給油	L	132	軽油	L	135			
S	3.42	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	t	64,000	鉄筋工 一般構造物	t	65,000	*	1.25	

労務費割増

割増率: 1.5

複合単価

新規登録

更新

削除

ケース4：下水道編 管きょ更生工法 諸雑費区分の夜間作業選択

施工条件の入力手順

- ① 諸雑費区分で 夜間作業を選択 (図-1 参照)
- ② 計算実行後、画面右側の労務費割増にチェックを入れる (例 1.5 を選択) (図-2 参照)

(図-1)

名前	製管工		
規格	(製管工法)		
単位	m		

区分	条件名称	回答	回答名称
J1	既設管径、更生管径	1	既設管径250mm、更生管径210mm
J2	諸雑費区分	2	夜間作業

(図-2)

✖ 積算結果

◀ 戻る **製管工**

施工名称	製管工	単位	m	単位数量	320	日当り施工量	320	
施工規格	(製管工法)	単価	803.1	単位数量あたり	257,000	施工数量	320	
選択条件	【1】既設管径、更生管径=既設管径250mm、更生管径210mm、【2】諸雑費区分=夜間作業						施工日数	1

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人	1	47,850	47,850	
特殊作業員		人	2	39,000	78,000	
普通作業員		人	3	33,150	99,450	
発動発電機運転 45KVA		日	1	6,962	6,962	第2号単価表
諸雑費(率+まるめ)		%	11	225,300	24,738	

補正

単価地区表示

岩手

週休2日補正

補正なし

労務費割増
 割増率:1.5

帳票

プレビュー

印刷

複合単価

新規登録

更新

削除

労務費割増のチェックを入れると、下記のようになります。

✖ 戻る
掘削

施工名称	掘削	単位	m3	日当り施工量	220		補正
備考		算出単価	1,590	施工数量	1		単価地区表示
選択条件	【J1】土質=土砂, 【J2】施工方法=片切掘削			施工日数	1		北海道

区分	構成比	代表機材名称・規格	単位	東京基準単価	積算地区名称・規格	単位	積算地区単価	演算子	係数	支給品
K	11.28									
K1	11.28	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m3 (平積0.6m3)	供用日	21,200	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音] 損料 排対3次 山積 0.8m3	供用日	23,200			
R	83.43									
R1	73.75	普通作業員	人	21,500	普通作業員	人	20,760	*	1.5	
R2	9.68	運転手(特殊)	人	24,200	運転手(特殊)	人	25,080	*	1.5	
Z	5.29									
Z1	5.29	軽油 1.2号 バトル給油	L	111	軽油 1.2号	L	117			

$$P' = 1137.1$$

$$\times \left\{ \left(\frac{11.28}{100} \times \frac{23200}{21200} \right) \times \frac{11.28}{11.28} \right.$$

$$+ \left(\frac{73.75}{100} \times \frac{20760 \times 1.5}{21500} + \frac{9.68}{100} \times \frac{25080 \times 1.5}{24200} \right) \times \frac{83.43}{73.75 + 9.68}$$

$$+ \left(\frac{5.29}{100} \times \frac{117}{111} \right) \times \frac{5.29}{5.29}$$

$$\left. + \frac{100 - 11.28 - 83.43 - 5.29}{100} \right\} = 1589.5013611240586791268914129 \approx 1590 \text{ [円/m}^3\text{]}$$

補正

単価地区表示

北海道

連休2日補正

補正なし

労務費割増

割増率 1.2

帳票

プレビュー

印刷

複合単価

新規登録

更新

削除

労務単価が割増され、二重に補正がかかってしまう状態になります。

計算式についても、1.2倍された単価に対してさらに1.5倍されてしまいます。

このように二重に補正がかかってしまうことがありますので、使用する際にはご注意ください。

4-5. 仮設材の賃料について（土木）

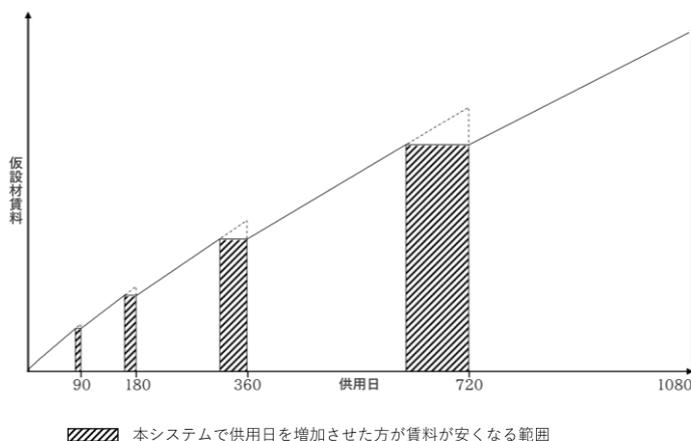
4-5-1. 仮設材賃料の減額補正

仮設材賃料では、供用日数に応じた長期割引が適用されます。賃料額は「1～90日」「91～180日」のような供用日数ごとに決まっており、日数が長くなるほど安価になることから、「90日使用するより91日使用した方が安い」といった逆転現象の発生するケースがあります。このような逆転現象を回避するための補正を「減額補正」といいます。

供用日数（又は月数）の長短による賃料にかかる市場価格の適用区分が変わることによって賃料計上額（1現場当り修理及び損耗費を除く。）が当該日数（又は月数）の増加に比例せず減少する場合があります。

したがって、減少する時点までの供用日数（又は月数）における賃料計上額（1現場当り修理及び損耗費を除く。）は、その減少する時点における賃料計上額（1現場当り修理及び損耗費を除く）を上限とし、下記の方法により減額補正する。

国土交通省土木工事標準積算基準書〈共通編〉仮設工より引用



賃料の減額補正 イメージ図

国土交通省土木工事標準積算基準書において、賃料の減額補正の考え方が記載されています。

本システムでは次ページの「表 賃料の減額補正のための比較検討を考慮する掲載施工単価名称一覧」が対象となりますが、本システムでは自動算出することができません。

「賃料の減額補正」と同等の金額を採用したい場合は、「表 賃料の減額補正の比較対象組み合わせ例」を参照のうえ、【賃料の減額補正の代替手順】を行い安値となる供用日の金額をご採用ください。

表 賃料の減額補正のための比較検討を考慮する掲載施工単価名称一覧

施工名称	施工規格
導枠、井筒内支保材料費	
鋼矢板・H形鋼(一部又は全体埋設)	当初は撤去、全て撤去不可
鋼矢板・H形鋼(一部撤去)	当初より一部を撤去しない場合
鋼矢板・H形鋼(一部又は全体撤去)	当初は撤去、一部が撤去不可
鋼矢板賃料(普通鋼矢板)	
H形鋼賃料	
山留材賃料	
覆工板賃料	
敷鉄板賃料	

表 賃料の減額補正の比較対象組み合わせ例

	供用日数 (A)	比較算出用の供用日数 (B)	備考
①	1~90	91	
②	91~180	181	
③	181~360	361	
④	361~720	721	
⑤	721~1080	—	比較対象がないため減額補正不要

【賃料の減額補正の代替手順】 (例：鋼矢板VL型 供用日数 350 日の場合 上表③に相当)
 供用日数 350 日及び比較算出用の供用日数 361 日を条件に指定して、算出を行ってください。
 仮設鋼材賃貸料金 鋼矢板VL型 360 日(12 カ月)以内 135 円×350 日 (A) = 47250……高値
 仮設鋼材賃貸料金 鋼矢板VL型 720 日(24 カ月)以内 125 円×361 日 (B) = 45125……安値
 この場合は供用日 361 日 (B) を指定することで、賃料の減額補正を適用した場合と同等の金額となります。

「供用日数」「供用月数」及び「総供用日数」「総供用月数」条件の注意点について

「表 「総供用日数」「総供用月数」条件を持つ掲載施工単価名称一覧」に記載がある施工において、継続工事となる場合は賃料単価決定のために「総供用日数」「総供用月数」の条件を設定しています。

当該工事の「供用日数」「供用月数」として設定した値を、「総供用日数」「総供用月数」が上回るように条件値の設定を行ってください。

表 「総供用日数」「総供用月数」条件を持つ掲載施工単価名称一覧

施工名称	施工規格
導枠、井筒内支保材料費	
鋼矢板賃料(普通鋼矢板)	
H形鋼賃料	
山留材賃料	
覆工板賃料	
敷鉄板賃料	

【手入力による修正の仕方】

例：供用日数 159 日、減額補正をしない場合、減額補正をする場合

供用日数	1日当り賃料	
3ヶ月(90日)以内	80円	
6ヶ月(180日)以内	80円	
1年(360日)以内	70円	
2年(720日)以内	60円	
3年(1080日)以内	55円	
供用日数	減額補正をしない場合	減額補正をする場合
156日	12,480円 (80円×156日)	12,480円
157日	12,560円	12,560円
158日	12,640円	12,640円
159日	12,720円	12,720円
160日	12,800円	12,670円 (70円×181日)
...
179日	14,320円	12,670円
180日	14,400円	12,670円
181日	12,670円 (70円×181日)	12,670円
182日	12,740円	12,740円
183日	12,810円	12,810円

当システムでは減額補正に対応していないため、減額補正をシステムにて表現する際には、画面上の数量欄と単価欄の数値を手入力により修正を行うことになります。

159日ですと、減額補正をしない場合は12,720円、減額補正をする場合は12,670円となります。減額補正をする場合は、数量（日数）もしくは単価を12,670円から割返修正する必要があります。

減額補正をしない場合 → 数量に159日、単価に80円を入力します。金額が12,720円になります

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼矢板賃料		t・日	159	80	12,720	
鋼矢板不足分償金		t	1	0	0	
諸雑費(まるめ)		式	1	12,720	0	

減額補正をする場合 → 数量と単価の数値を変更することで、減額補正額を12,670円に合わせます

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼矢板賃料		t・日	1	12,670	12,670	
鋼矢板不足分償金		t	1	0	0	
諸雑費(まるめ)		式	1	12,670	0	

金額を12,670円にするため、数量と単価の数値を手入力で調整（割り返し）します

4-5-2. 仮設材の賃料計上限度額

賃料計上限度額（1現場当り修理費及び損耗費を含む）である施工業者が入手可能な購入価格（市中価格）の80%を超えないように調整して入力してください。

賃料計上限度額（1現場当り修理費及び損耗費を含む）である不足分弁償金にかかわる市中価格（新品）の80%を超えないように調整して入力してください。

本システムでは「表 賃料計上限度額を考慮する必要がある掲載施工単価名称一覧」の施工が対象となりますが、供用日数設定時の賃料計上限度額について自動算出されません。

仮設材賃料の供用日数については比較検討のうえ、適切な日数をご設定ください。

表 賃料計上限度額を考慮する必要がある掲載施工単価名称一覧

施工名称	施工規格	市中価格に対する割合
導棒、井筒内支保材料費		80%
鋼矢板・H形鋼(一部撤去)	当初より一部を撤去しない場合	80%
鋼矢板・H形鋼(一部又は全体撤去)	当初は撤去、一部が撤去不可	80%
鋼矢板賃料(普通鋼矢板)		80%
H形鋼賃料		80%
山留材賃料		80%
覆工板賃料		80%
敷鉄板賃料		90%

4-6. 鋼矢板材料における「地域エクストラ」の加算について

仮設工の鋼矢板材料における地域エクストラの加算について、当システムでの【工種名：鋼矢板材料】では対応しておりません。【工種：鋼矢板（各種）】にて、合算した数値を手入力してください。

(地域エクストラの加算額については、当会発行の「建設物価」に掲載しておりますので、ご参照ください)

施工単価	複合単価
▲ 共通工	
▷ 土工	
▷ 共通工	
▷ 基礎工	
▷ コンクリート工	
▲ 仮設工	
▷ 仮設工	
▲ 鋼矢板（H形鋼）工（パイロハンマ工）	
T パイロハンマによる鋼矢板打込み	
T パイロハンマによるH形鋼打込み	
T パイロハンマによる鋼矢板引抜き	
T パイロハンマによるH形鋼引抜き	
T パイロハンマ・WJによる鋼矢板打込み	
T パイロハンマ・WJによるH形鋼打込み	
T 鋼矢板賃料(普通鋼矢板)	
T 鋼矢板材料	
T 鋼矢板(各種)	
T H形鋼賃料	
▷ 鋼矢板（H形鋼）工（パイロハンマ工（軽量鋼矢板打込引抜き工））	
▷ 鋼矢板（H形鋼）工（油圧圧入引抜き工）	
▷ 鋼矢板（H形鋼）工（プレボーリング）	
▷ 鋼矢板工（アースオーガ併用圧入工）	

4-7. 機械器具損料について（下水）

楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ 下水 直接工事費編の推進工法で使用されている機械器具損料につきましては、当会発行の「**推進工用機械器具等基礎価格表**」の基礎価格と公益社団法人 日本推進技術協会発行の「**推進工用機械器具等損料率参考資料**」の損料率を参考に各機械器具損料を毎算出し、推進機械器具損料単価表を作成し単位当たりの損料単価を手入力での利用となります。



2025 年度版 建設物価 推進工用機械器具等基礎価格表

定価：9,790 円（税込）

日本推進技術協会の「推進工用機械器具等損料率参考資料」に掲載の各種機械器具等について建設物価調査会が調査した実勢価格表。最新調査価格を掲載した 2025 年度版。管路更生工法の機械器具についても掲載。

※掲載対象の工法については、（公社）日本推進技術協会発行「推進工用機械器具等損料率参考資料」をベースに選定しております。

※刃先製作取付費、ケーシングは「Web 建設物価」に掲載しています。

《2025 年 8 月下旬発行》

楽らくアプロ工事費算出システム 下水道 直接工事費編では以下の施工単価が対象となります。

小口径泥土圧推進工	推進工	機械器具 損料	推進工(小口径泥土圧)(1)	日
			推進工(小口径泥土圧)(2)	m
鋼製さや管ボ-リング(一重ケーシング)推進工	推進工		推進工(鋼製さや管ボ-リング 一重)	日
	塩ビ管挿入工		塩ビ管挿入工	日
低耐力圧入二工程推進工	誘導管推進工		誘導管推進工(1)	日
			誘導管推進工(2)	m
低耐力圧入二工程推進工	硬質塩化ビ-管推進工		硬質塩化ビ-管推進工(1)	日
			硬質塩化ビ-管推進工(2)	m
			滑材注入	日
低耐力ホ-ダ推進工	推進工		推進工(低耐力ホ-ダ)(1)	日
			推進工(低耐力ホ-ダ)(2)	m
低耐力泥土圧推進工	推進工		推進工(低耐力泥土圧)(1)	日
		推進工(低耐力泥土圧)(2)	m	

以下に、推進工（鋼製さや管ボーリング（一重ケーシング））の例を記載します。

尚、わかりやすくするために、参考損料金額を記載しています。実際の積算においては前頁に記載のとおり基礎価格と損料率を使用して算出して下さい。

E-42-1 推進工機械器具損料(1) (1m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
推 進 機 損 料	15kW	日	1	55,100	55,100	
削 進 台		々	1	5,410	5,410	
溶 接 機	250 (A)	々	1	176	176	
グラウトポンプ	横型複動 8kW 吐出力37~100ℓ/min	々	1	3,680	3,680	
水 槽	1.0m ³	々	1	472	472	
ウォータースイベル	φ60	々	1	894	894	
スイベルヘッド	鋼管呼び径350mm用	々	1	2,660	2,660	
計					68,392	

D-42-1 推進工（鋼管さや管ボーリング（一重ケーシング）） (1m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役		人	1.0	28,900	28,900	
特殊作業員		々	1.0	26,700	26,700	
普通作業員		々	1.0	23,900	23,900	
溶接工		々	1.0	32,400	32,400	
クレーン装置付トラック運搬費	4 t 積, 2.9 t 吊	日	1.0	43,330	43,330	表-6-33
推進工機械器具損料		々	1.0	68,392	68,392	E-42-1
発動発電機運転費(1)	排出ガス対策型 (第1次基準値) 60KVA	々	1.0	9,318	9,318	鋼管呼び径250~600の場合 表-6-34
発動発電機運転費(2)	排出ガス対策型 (第1次基準値) 100KVA	々	0.0	13,640	0	鋼管呼び径700~800の場合 表-6-35
トラック損料	4~4.5 t 積	々	1.13	4,220	4,768	(注)1 数量は1.0×α
諸 雑 費		式	1		1,092	(注)2 労務費の1%
計					238,800	1日当り
1 m 当 り					50,808	計/4.7m

積算結果

◀ 戻る 推進工

施工名称	推進工	単位	m	単位数量	4.7	日当り施工量	4.7
施工規格	(鋼製さや管が-リング 一重7-シダ)	単価	35,210	単位数量あたり	165,500	施工数量	4.7
選択条件	【1】土質区分=砂質土・粘性土, 【2】呼び径=φ250mm, 【3】供用日の割増率α=1.5					施工日数	1

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人	1	28,900	28,900	
特殊作業員		人	1	26,700	26,700	
普通作業員		人	1	23,900	23,900	
溶接工		人	1	32,400	32,400	
トラック運転(クレーン装置付)		日	1	43,270	43,270	第2号単価表
機械器具損料	推進工(鋼製さや管が-リング 一重)	日	1	0	0	
発動発電機運転 60kVA		日	1	9,222	9,222	第3号単価表
トラック(普通)損料	4~4.5t積(11輛)	供用日	1.5	0	0	
諸雑費(率+まるめ)		%	1	111,900	1,108	

修正
単価地区表示
東京

週休2日補正
補正なし

労務費割増
 割増率 1.5

帳票
プレビュー
印刷

複合単価
新規登録
更新
削除

68,392 を入力

上図はシステム画面です。

システム画面の赤枠に算出した合計金額を入力してください。